

# 沖縄県経済動向

(令和5年1月－3月期)

令和5年6月 21 日

沖縄県企画部 企画調整課

# 沖縄県経済動向

景気は、緩やかに回復している。

※指標は、特記が無い限り令和5年1月－3月期とする。

※本資料において、「前年比」は前年同期あるいは前年同月からの増減比とする。

※本頁において、「+、△」は前年同期あるいは前期からの増減とする。

## 【観光】

・ 入域観光客数は、8期連続で前年同期を上回った。国内客は、2月では過去最多を記録した。また、外国客は、3期連続で前年同期から皆増となり、堅調に推移している。

(総数 +131.4%、国内客 +112.8%、外国客 皆増)

・ 主要ホテルの客室稼働率及び観光施設入場者数は、5期連続で前年同期を上回っている。

(客室稼働率 64.3%、+34.1pt)

## 【個人消費】

・ 百貨店・スーパー販売額は、既存店、全店舗ともに、前年同期を上回っている。

(販売額 既存店 +8.3%、全店舗 +10.7%)

・ 自動車(新車)の販売台数は、総台数、軽自動車ともに、前年同期を上回っている。

(総台数 +30.3%、軽自動車 +18.5%)

## 【建設関連】

・ 住宅は、着工戸数、着工床面積ともに、前年同期を上回っている。

非居住建築物は、着工床面積、工事費ともに、前年同期を下回っている。

(住宅着工戸数 +15.3%、非居住建築物工事費 △27.8%)

・ 公共工事は、保証件数、請負額ともに、前年同期を上回っている。

(公共工事保証件数 +11.0%、請負額 +46.3%)

## 【雇用情勢】

・ 完全失業率は、前年同期より改善している。 (完全失業率 3.5%(原数値)、0.3pt 改善)

・ 有効求人倍率は、前期を上回っている。 (有効求人倍率 1.13 倍、+0.04pt)

## 【物価】

・ 消費者物価指数は、6期連続で前年同期を上回っている。

(消費者物価指数(総合) +3.3pt)

・ レギュラーガソリン小売価格は、8期ぶりに前年同期を下回っている。

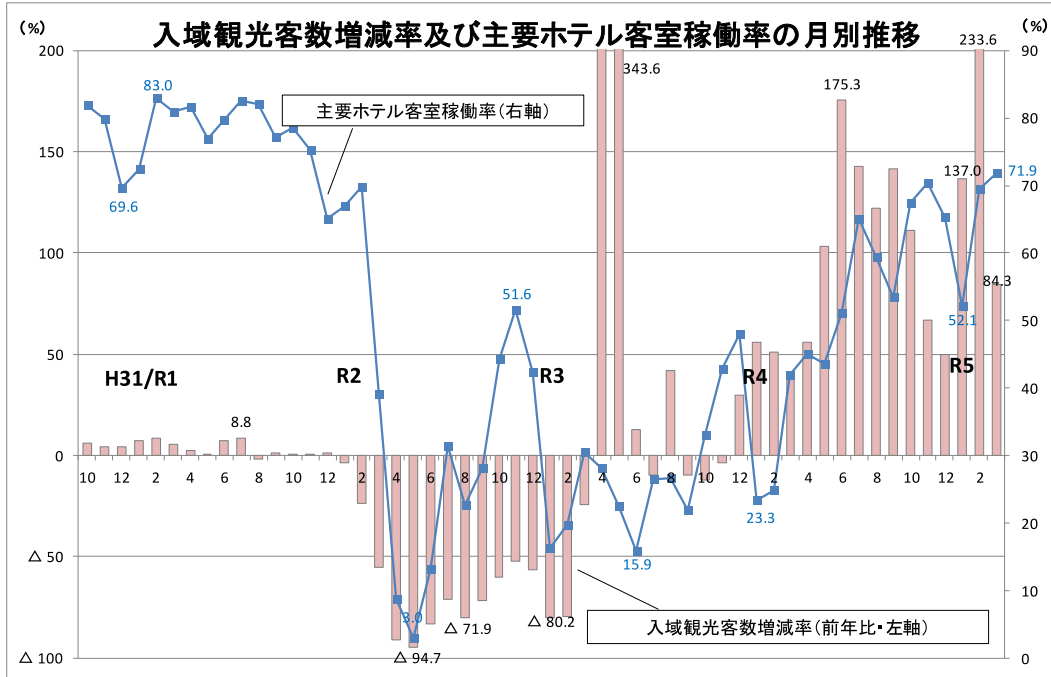
(レギュラーガソリン小売価格 △3 円)

以上のように、観光関連が好調に推移していることや、個人消費、雇用情勢における持ち直しの動きが強まっていることから、「景気は、緩やかに回復している。」(前回から上方修正)とした。

なお、先行きについては、各種政策の効果もあって、景気の回復が続くことが期待されるが、人手不足や物価上昇、金融資本市場の変動等が県経済に及ぼす影響に十分注意する必要がある。

# ① 観光

- 入域観光客数は、コロナ感染症拡大にかかる行動制限がない状況や全国旅行支援が継続したこと、国際線の増便や国際クルーズの再開などにより増加し、8期連続で前年同期を上回った。2月の国内客は、過去最多を記録した。また、外国客は、3期連続で皆増となり、堅調に推移している。
- 主要ホテルの客室稼働率及び観光施設入場者数は、コロナ前の水準は下回っているものの、5期連続で前年同期を上回っている。

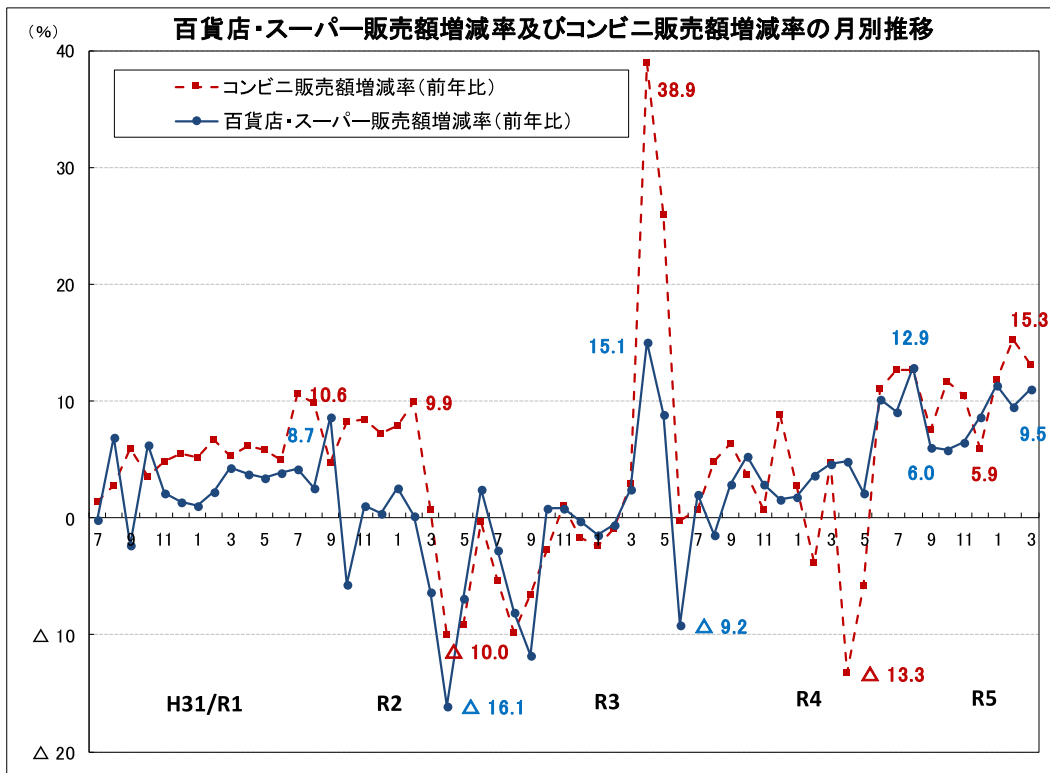


	入域観光客数						主要ホテル客室稼働率		観光施設入場者数
	総数		国内客		外国客		客室稼働率		入場者数
	(百人)	前年比	(百人)	前年比	(百人)	前年比	(%)	前年差 <sup>※1</sup>	前年比(%)
(参考)H31.1-3月	24,097	7.0	17,132	3.6	6,965	16.2	78.6	△ 1.5	1.2
(参考)R2.1-3月	17,150	△ 28.8	14,581	△ 14.9	2,569	△ 63.1	58.4	△ 20.2	△ 40.0
(参考)R3.1-3月	5,620	△ 67.2	5,620	△ 61.5	0	△ 100.0	22.2	△ 36.2	△ 64.7
R4.1-3月	8,195	45.8	8,195	45.8	0	0.0	30.2	8.0	13.2
4-6月	12,543	102.1	12,543	102.1	0	0.0	46.5	24.4	131.4
7-9月	17,433	134.5	17,432	134.5	1	(皆増)	59.4	34.4	854.8
10-12月	18,807	72.4	18,331	68.1	476	(皆増)	67.6	26.4	97.8
R5.1-3月	18,963	131.4	17,439	112.8	1,524	(皆増)	64.3	34.1	190.2
R4.1月	2,246	56.0	2,246	56.0	0	0.0	23.3	7.0	9.0
2月	1,792	50.8	1,792	50.8	0	0.0	24.8	5.1	△ 6.9
3月	4,157	38.9	4,157	38.9	0	0.0	41.9	11.4	16.1
4月	4,090	55.8	4,090	55.8	0	0.0	45.0	16.9	43.1
5月	3,968	103.3	3,968	103.3	0	0.0	43.5	21.1	100.3
6月	4,485	175.3	4,485	175.3	0	0.0	51.1	35.2	706.4
7月	6,078	142.7	6,078	142.7	0	0.0	65.1	38.7	553.7
8月	6,408	122.3	6,407	122.3	1	(皆増)	59.5	32.8	1167.0
9月	4,947	141.4	4,947	141.4	0	0.0	53.4	31.5	1123.9
10月	6,307	110.9	6,280	110.0	27	(皆増)	67.4	34.4	160.3
11月	6,150	67.1	6,029	63.8	121	(皆増)	70.3	27.4	93.8
12月	6,350	49.9	6,022	42.2	328	(皆増)	65.2	17.3	62.2
R5.1月	5,322	137.0	4,874	117.0	448	(皆増)	52.1	28.8	203.7
2月	5,979	233.6	5,545	209.4	434	(皆増)	69.5	44.7	317.5
3月	7,662	84.3	7,020	68.9	642	(皆増)	71.9	30.0	131.9

※1: 本資料において、「前年差」については四半期指標が「前年同期差」、月次指標が「前年同月差」である。

## ② 個人消費

- 百貨店・スーパー、コンビニ販売額は、前年同期を上回っている。
- 家電製品販売額は、前年同期を下回っている。
- 自動車販売(新車)台数は、前年同期を上回っている。
- 家計消費支出は、前年同期を下回っている。



	百貨店・スーパー販売額(前年比)		コンビニ販売額	家電製品販売額	自動車販売(新車)				家計消費支出 <sup>※1</sup> (名目)		実収入(名目)	
	既存店	全店舗	前年比	前年比	総台数		うち軽自動車		(円)	前年比	(円)	前年比
					(台)	前年比	(台)	前年比				
(参考)H31.1-3月	1.0	2.6	5.7	1.2	14,284	2.9	7,350	1.4	213,732	0.0	366,816	22.3
(参考)R2.1-3月	△ 5.2	△ 1.3	6.0	△ 4.3	13,030	△ 8.8	6,326	△ 13.9	200,436	△ 6.2	317,893	△ 13.3
(参考)R3.1-3月	△ 2.2	0.1	△ 0.2	28.2	12,557	△ 3.6	7,439	17.6	225,044	12.3	394,752	24.2
R4.1-3月	1.5	3.4	1.3	10.8	9,882	△ 21.3	5,182	△ 30.3	236,193	5.0	352,466	△ 10.7
4-6月	4.8	5.6	△ 3.6	0.5	8,875	△ 4.3	4,287	△ 24.4	212,269	△ 6.4	431,948	△ 12.8
7-9月	6.9	9.4	11.1	△ 5.0	10,827	9.5	5,074	0.4	229,653	8.7	456,727	18.7
10-12月	4.9	7.1	9.3	△ 0.2	10,200	19.5	5,654	19.3	225,832	△ 2.4	525,985	12.8
R5.1-3月	8.3	10.7	13.4	△ 3.3	12,875	30.3	6,143	18.5	234,224	△ 0.8	398,483	13.1
R4.1月	△ 0.1	1.8	2.8	16.6	2,687	△ 22.7	1,609	△ 24.6	251,462	20.5	315,672	△ 10.4
2月	1.9	3.7	△ 3.8	24.9	2,833	△ 24.4	1,560	△ 30.1	216,758	9.3	397,590	△ 11.1
3月	2.8	4.6	4.7	△ 1.7	4,362	△ 18.2	2,013	△ 34.5	240,359	△ 10.3	344,137	△ 10.5
4月	4.8	4.8	△ 13.3	5.4	3,452	9.9	1,611	△ 17.1	223,834	△ 8.6	416,902	△ 7.1
5月	1.5	2.1	△ 5.8	△ 14.5	1,948	△ 30.8	1,134	△ 39.4	207,186	△ 10.3	378,923	0.9
6月	8.5	10.2	11.0	12.6	3,475	4.7	1,542	△ 17.0	205,787	0.5	500,018	△ 24.5
7月	6.7	9.1	12.7	△ 1.7	4,645	7.6	1,787	△ 9.2	238,018	11.2	551,094	16.5
8月	10.1	12.9	12.7	△ 5.2	2,786	△ 7.0	1,356	△ 13.7	264,886	26.2	465,886	23.1
9月	3.6	6.0	7.6	△ 8.5	3,396	31.9	1,931	27.5	186,056	△ 11.4	353,201	16.6
10月	3.5	5.8	11.7	△ 1.8	3,118	21.7	1,846	33.2	214,183	△ 5.0	410,232	13.8
11月	4.3	6.5	10.5	0.0	3,426	11.4	2,017	20.3	209,256	0.1	354,509	4.8
12月	6.5	8.7	5.9	1.0	3,656	26.0	1,791	6.8	254,058	△ 2.2	813,215	16.1
R5.1月	9.0	11.4	11.8	△ 3.6	3,567	32.8	1,950	21.2	238,650	△ 5.1	371,769	17.8
2月	7.1	9.5	15.3	△ 5.0	4,133	45.9	2,040	30.8	210,388	△ 2.9	428,140	7.7
3月	8.6	11.0	13.1	△ 1.7	5,175	18.6	2,153	7.0	253,634	5.5	395,541	14.9

※1: 家計消費支出は二人以上の世帯、実収入は二人以上の世帯のうち勤労者世帯の数値

### ③ 建設関連

- 住宅は、着工戸数、着工床面積ともに、前年同期を上回っている。
- 非居住建築物は、着工床面積、工事費ともに、前年同期を下回っている。

	住宅着工				非居住建築物			
	戸数	前年比	面積(m <sup>2</sup> )	前年比	面積(m <sup>2</sup> )	前年比	工事費(百万円)	前年比
(参考)H31.1-3月	3,503	△ 14.7	261,379	△ 5.1	148,793	△ 19.1	42,225	△ 14.9
(参考)R2.1-3月	2,648	△ 24.4	208,889	△ 20.1	159,617	7.3	43,762	3.6
(参考)R3.1-3月	2,280	△ 13.9	176,969	△ 15.3	260,162	63.0	98,134	124.2
R4.1-3月	1,927	△ 15.5	175,180	△ 1.0	182,712	△ 29.8	42,260	△ 56.9
4-6月	2,561	5.9	219,840	13.8	163,891	4.8	51,663	△ 14.5
7-9月	2,239	△ 5.0	194,841	1.3	125,385	6.6	44,150	63.4
10-12月	2,452	△ 9.5	206,561	△ 9.4	230,039	0.6	78,944	21.9
R5.1-3月	2,222	15.3	185,544	5.9	85,965	△ 53.0	30,496	△ 27.8
R4.1月	633	△ 20.7	51,667	△ 14.2	70,059	20.9	11,449	△ 31.7
2月	542	△ 27.8	54,520	△ 7.9	26,939	△ 56.0	7,349	△ 70.1
3月	752	2.9	68,993	20.0	85,714	△ 39.2	23,462	△ 58.7
4月	980	7.3	80,065	12.1	48,574	△ 34.0	17,792	△ 32.5
5月	835	12.2	74,346	23.0	58,867	135.5	22,804	322.2
6月	746	△ 2.0	65,429	6.8	56,450	△ 2.5	11,067	△ 61.4
7月	731	△ 18.9	63,739	△ 12.0	28,893	△ 44.1	7,080	△ 30.9
8月	810	8.9	69,119	14.3	43,481	13.9	12,301	16.7
9月	698	△ 2.1	61,983	4.4	53,011	90.8	24,769	297.4
10月	648	△ 27.8	54,848	△ 20.5	85,638	△ 33.4	27,079	△ 26.5
11月	777	△ 11.9	70,642	△ 6.1	93,572	88.2	34,091	113.0
12月	1,027	10.3	81,071	△ 3.3	50,829	0.6	17,774	49.1
R5.1月	895	41.4	72,687	40.7	21,907	△ 68.7	6,444	△ 43.7
2月	657	21.2	54,065	△ 0.8	44,973	66.9	19,290	162.5
3月	670	△ 10.9	58,792	△ 14.8	19,085	△ 77.7	4,763	△ 79.7

	公共工事保証請負額・件数				建設資材価格 (那覇, H27=100)
	件数	前年比	額(百万円)	前年比	
(参考)H31.1-3月	576	△ 1.0	83,194	△ 37.8	106.4
(参考)R2.1-3月	582	1.0	65,429	△ 21.4	107.1
(参考)R3.1-3月	554	△ 4.8	65,884	0.7	111.5
R4.1-3月	536	△ 3.2	106,202	61.2	126.5
4-6月	553	△ 13.1	80,556	3.3	134.3
7-9月	1,028	△ 7.7	95,581	△ 28.6	135.9
10-12月	744	△ 6.9	58,012	△ 13.0	138.7
R5.1-3月	595	11.0	155,400	46.3	144.8
R4.1月	169	△ 11.5	26,815	64.1	125.7
2月	137	1.5	24,548	58.9	125.8
3月	230	0.9	54,839	60.8	127.9
4月	146	△ 20.7	16,593	△ 41.5	131.9
5月	157	△ 19.5	13,732	△ 51.1	135.1
6月	250	△ 2.7	50,231	132.5	135.8
7月	333	△ 7.0	26,405	△ 40.6	135.9
8月	324	△ 11.2	39,829	12.0	135.6
9月	371	△ 5.1	29,347	△ 45.5	136.2
10月	309	△ 8.8	29,678	11.1	136.4
11月	238	△ 9.5	17,120	△ 22.1	136.5
12月	197	0.0	11,214	△ 37.6	143.3
R5.1月	152	△ 10.1	11,114	△ 58.6	143.3
2月	171	24.8	59,359	141.8	143.3
3月	272	18.3	84,927	54.9	147.8

## ④ 雇用情勢

- 前年同期より、労働力人口は4千人、就業者数は7千人の増加となっている。
- 完全失業者数は、27千人となった。完全失業率(原数値)は3.5%と前年同期から0.3ポイント改善した。
- 有効求人倍率(季調値)は、1.13倍と前期、前年同期を上回った。

	労働力人口		就業者数		完全失業者数		完全失業率(原数値)		完全失業率(季調値)	
	(千人)	前年差	(千人)	前年差	(千人)	前年差	(%)	前年差	(%)	前年差
(参考)H31.1-3月	749	17	729	23	19	△7	2.6	△0.9	2.7	△0.7
(参考)R2.1-3月	760	11	737	8	23	4	3.0	0.4	3.2	0.5
(参考)R3.1-3月	758	△2	728	△9	29	6	3.9	0.9	3.9	0.3
R4.1-3月	779	21	749	21	29	0	3.8	△0.1	3.7	0.4
4-6月	767	13	745	19	21	△7	2.8	△1.0	2.8	△0.9
7-9月	758	2	732	5	26	△3	3.5	△0.4	3.3	0.5
10-12月	779	17	755	17	24	1	3.0	△0.1	3.3	0.0
R5.1-3月	783	4	756	7	27	△2	3.5	△0.3	3.4	0.1
R4.1月	789	32	759	29	30	3	3.8	0.2	3.8	0.1
2月	773	8	741	4	32	4	4.1	0.4	4.0	0.2
3月	774	23	748	30	26	△7	3.4	△1.0	3.2	△0.8
4月	779	16	757	22	22	△6	2.8	△0.9	2.9	△0.3
5月	760	9	739	15	21	△6	2.8	△0.8	2.9	0.0
6月	761	13	739	21	21	△9	2.8	△1.2	2.7	△0.2
7月	743	△9	714	△6	29	△3	3.9	△0.4	3.6	0.9
8月	754	△5	728	△2	26	△2	3.4	△0.3	3.3	△0.3
9月	778	21	754	24	24	△3	3.1	△0.5	3.0	△0.3
10月	772	24	753	26	19	△1	2.5	△0.2	2.7	△0.3
11月	773	9	749	9	24	0	3.1	0.0	3.5	0.8
12月	792	18	764	16	28	2	3.5	0.1	3.6	0.1
R5.1月	787	△2	766	7	22	△8	2.8	△1.0	2.8	△0.8
2月	781	8	753	12	28	△4	3.6	△0.5	3.5	0.7
3月	781	7	749	1	32	6	4.1	0.7	3.9	0.4

	有効求職者数 (季調値)		有効求人数 (季調値)		有効求人倍率 (季調値)		正社員有効求人倍率 (原数値)		現金給与総額指数※1	
	(人)	前期差	(人)	前期差	(倍)	前期差	(倍)	前期差	(R2=100)	前期差
(参考)H31.1-3月	25,241	442	30,444	1,095	1.21	0.02	0.55	0.04	90.2	0.2
(参考)R2.1-3月	26,102	327	30,561	△3,944	1.17	△0.17	0.63	0.08	92.3	2.1
(参考)R3.1-3月	30,134	113	23,096	709	0.77	0.02	0.46	△0.17	86.6	△5.7
R4.1-3月	32,377	777	27,623	1,663	0.85	0.03	0.52	0.06	85.3	△1.3
4-6月	31,981	△396	30,184	2,561	0.94	0.09	0.53	0.08	103.3	2.2
7-9月	31,213	△768	31,813	1,629	1.02	0.08	0.59	0.09	92.9	0.4
10-12月	30,266	△947	32,959	1,146	1.09	0.07	0.70	0.17	112.2	△0.1
R5.1-3月	29,571	△695	33,407	448	1.13	0.04	0.68	0.16	85.0	△0.3
R4.1月	32,037	549	27,262	1,034	0.86	0.03	0.55	0.05	83.0	△5.4
2月	32,357	320	27,771	509	0.87	0.01	0.51	0.06	83.0	△0.4
3月	32,737	380	27,836	65	0.88	0.01	0.49	0.05	89.9	1.9
4月	32,284	△453	29,567	1,731	0.92	0.04	0.50	0.07	88.5	1.7
5月	32,023	△261	30,069	502	0.94	0.02	0.52	0.07	85.9	0.9
6月	31,637	△386	30,916	847	0.98	0.04	0.56	0.08	135.4	3.9
7月	31,560	△77	31,378	462	0.99	0.01	0.57	0.07	100.3	△0.1
8月	31,142	△418	31,846	468	1.02	0.03	0.60	0.11	91.7	△1.0
9月	30,937	△205	32,215	369	1.04	0.02	0.61	0.11	86.6	2.2
10月	30,649	△288	32,739	524	1.07	0.03	0.65	0.15	87.2	1.3
11月	30,101	△548	33,038	299	1.10	0.03	0.71	0.18	89.1	0.6
12月	30,047	△54	33,100	62	1.10	0.00	0.73	0.16	160.4	△2.1
R5.1月	30,153	106	34,107	1,007	1.13	0.03	0.72	0.17	84.6	1.6
2月	29,739	△414	33,386	△721	1.12	△0.01	0.67	0.16	83.4	0.4
3月	28,820	△919	32,729	△657	1.14	0.02	0.65	0.16	87.0	△2.9

※1: 現金給与総額は事業所規模5人以上の値。

## ⑤ 物価

- 消費者物価指数は、6期連続で前年同期を上回っている。また、レギュラーガソリン小売価格については、上昇傾向にあったが、8期ぶりに前年同期を下回っている。

	消費者物価指数(R2=100)				レギュラーガソリン小売価格			
	総合	前年比	前月比	総合(生鮮除く)	食料	(円/ℓ)	前年差	前期差
(参考)H31.1-3月	101.9	0.4	△ 0.4	101.8	103.9	149.1	△ 2	△ 12
(参考)R2.1-3月	100.1	△ 1.8	△ 0.3	100.4	99.1	156.5	7	2
(参考)R3.1-3月	100.1	0.0	0.2	100.3	99.2	147.0	△ 10	6
R4.1-3月	100.9	0.8	0.5	100.9	102.0	174.7	28	4
4-6月	102.2	2.9	1.3	102.0	104.5	179.6	24	5
7-9月	103.4	3.4	1.2	102.9	106.7	182.0	19	2
10-12月	104.5	4.1	1.1	104.0	109.9	175.3	5	△ 7
R5.1-3月	104.2	3.3	△ 0.3	104.1	111.1	171.9	△ 3	△ 3
R4.1月	100.6	0.4	0.1	100.6	102.0	169.7	26	△ 4
2月	100.9	0.9	0.3	100.9	101.9	175.6	28	6
3月	101.3	1.2	0.4	101.3	102.2	178.7	29	3
4月	101.9	2.9	0.6	101.9	103.5	179.2	25	1
5月	102.2	2.9	0.3	102.0	104.4	179.1	24	0
6月	102.5	2.9	0.3	102.1	105.5	180.6	24	2
7月	103.0	3.1	0.5	102.7	105.5	184.5	23	4
8月	103.3	3.4	0.3	102.8	106.3	182.0	17	△ 3
9月	103.8	3.6	0.5	103.1	108.3	179.6	17	△ 2
10月	104.6	4.3	0.7	103.9	110.1	178.0	13	△ 2
11月	104.6	4.2	0.0	104.1	110.2	174.1	1	△ 4
12月	104.2	3.7	△ 0.4	104.0	109.4	173.7	0	0
R5.1月	104.6	4.0	0.4	104.4	110.8	173.2	4	△ 1
2月	103.7	2.8	△ 0.9	103.5	110.9	171.7	△ 4	△ 2
3月	104.4	3.1	0.7	104.3	111.6	170.7	△ 8	△ 1

## ⑥ 金融

- 実質預金・貸出金は、前年同期を上回っている。その他、貸出金利(地元3行)は、緩やかに低下している。

	預金・貸出金残高(県内6行庫計)					地方銀行貸出約定平均金利	
	実質預金(A)		貸出金(B)		比率※1 (B/A)	全国(%)	沖縄(地元3行貸出 約定平均金利)
	億円	前年比(%)	億円	前年比(%)			月末水準(%)
(参考)H31.1-3月	49,141	3.4	39,537	6.2	0.80	0.934	1.483
(参考)R2.1-3月	50,358	2.5	40,765	3.1	0.81	0.886	1.458
(参考)R3.1-3月	56,384	12.0	42,585	4.5	0.76	0.852	1.386
R4.1-3月	58,716	4.1	43,068	1.1	0.73	0.822	1.352
4-6月	60,769	4.5	42,963	0.8	0.71	0.814	1.342
7-9月	60,532	4.8	43,305	0.9	0.72	0.808	1.336
10-12月	60,609	3.9	43,443	0.6	0.72	0.802	1.332
R5.1-3月	60,834	3.6	43,907	1.9	0.72	0.803	1.324
R4.1月	58,275	4.2	42,787	1.7	0.73	0.826	1.357
2月	58,247	3.5	42,814	1.1	0.74	0.823	1.355
3月	58,716	4.1	43,068	1.1	0.73	0.822	1.352
4月	60,284	4.5	42,714	0.5	0.71	0.819	1.353
5月	60,183	3.9	42,954	0.9	0.71	0.815	1.345
6月	60,769	4.5	42,963	0.8	0.71	0.814	1.342
7月	60,929	5.1	43,008	0.9	0.71	0.811	1.341
8月	60,804	4.8	43,092	1.1	0.71	0.807	1.339
9月	60,532	4.8	43,305	0.9	0.72	0.808	1.336
10月	60,544	4.2	43,190	0.6	0.71	0.805	1.337
11月	60,547	3.9	43,292	1.5	0.72	0.804	1.333
12月	60,609	3.9	43,443	0.6	0.72	0.802	1.332
R5.1月	60,153	3.2	43,460	1.6	0.72	0.800	1.331
2月	60,217	3.4	43,643	1.9	0.72	0.800	1.328
3月	60,834	3.6	43,907	1.9	0.72	0.803	1.324

※1: 実質預金に対する貸出金の割合。この比率は、県企画部企画調整課で算出したものである。

## ⑦ 関係機関による景況調査等

- ・ 短期経済観測調査(日本銀行那覇支店)では、令和5年1月－3月期の業況判断 DIはプラス 24 となり、3期連続のプラスとなった。また、令和5年4月－6月期の業況についてもプラスの見通しとしている。雇用人員判断については、現状・見通しともに「不足」超が拡大している。
- ・ 法人企業景気予測調査(沖縄総合事務局)では、令和5年1月－3月期の景況判断を「現状判断は「上昇」超幅が縮小、先行きは「上昇」と「下降」の均衡となった後、「上昇」超となる見通し」としている。雇用では「現状判断は「不足気味」超幅が縮小、先行きは「不足気味」超で推移する見通し」としている。
- ・ 県内企業業況調査(沖縄振興開発金融公庫)では、令和5年1月－3月期の業況判断を「当期は「好転」超幅がほぼ横這いとなり、4期連続のプラス、来期は「好転」超幅がやや拡大の見通し」としている。雇用判断では「当期は「不足」超幅がやや拡大、来期は「不足」超幅がやや縮小の見通し」としている。

※ 各調査は、調査対象や内容等が異なるため、調査結果の比較に注意を要する。

※ DI及び BSI は、回答の構成割合の差と定義される。例えば景況DIは、「良い」の回答割合から「悪い」の回答割合を差し引いたものである。

※ 法人企業景気予測調査は BSI を用いている。

	短期経済観測調査 (日本銀行那覇支店) 業況判断DI	法人企業景気予測調査 (沖縄総合事務局) 景況判断BSI	県内企業景況調査 (沖縄振興開発金融公庫) 業況判断DI
R4. 1-3	△19	△16.8	△21.3
4-6	△4	10.2	4.0
7-9	12	11.7	16.7
10-12	22	11.0	18.8
R5. 1-3 (※1)	24 (16)	8.3 (6.4)	20.2 (20.9)
次期見通し	25	0.0	22.9

※1: 下段括弧内は、前回調査における見通しとしてのDI・BSIである。

	短期経済観測調査 (日本銀行那覇支店) 雇用判断DI	法人企業景気予測調査 (沖縄総合事務局) 雇用判断BSI※1	県内企業景況調査 (沖縄振興開発金融公庫) 雇用判断DI※1
R4. 1-3	△24	△15.5	△28.5
4-6	△32	△25.2	△35.1
7-9	△42	△35.0	△40.9
10-12	△48	△43.9	△47.3
R5. 1-3 (※2)	△52 (△47)	△35.7 (△30.6)	△51.8 (△49.7)
次期見通し	△54	△27.6	△49.7

※1: 法人企業景気予測調査と県内企業景況調査の原資料においては、(不足一過剩)をDI・BSIと定義しているが、本資料では短期経済観測調査の表記に合わせて、符号を反転し、全て(過剰－不足)のDI・BSIとして掲載している。

※2: 下段括弧内は、前回調査における見通しとしてのDI・BSIである。

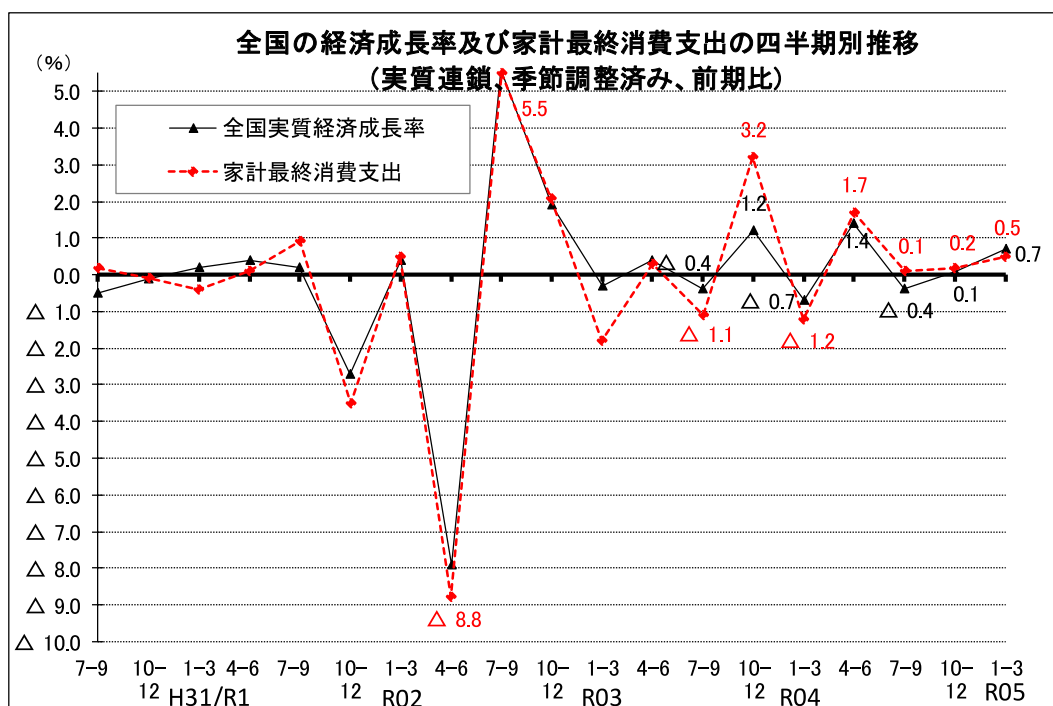


## ⑧ その他

- 企業倒産は、件数・負債総額ともに前年同期を下回っている。金融支援により、101 ヶ月連続で一桁台の件数となっているが、9ヶ月連続でコロナ関連倒産が確認された。
- 貿易額については、化粧品等の需要増に伴う輸入品目が増加するなど、輸入額は5期連続で前年同期を上回っているものの、輸出額が大きく減少し、全体として輸入超過となっている。

	鉱工業指数 (季節調整済指数)				企業倒産			沖縄地区税関貿易額				
	生産指数		出荷指数		(負債総額1千万円以上)			輸出額		輸入額		差引額 (輸出-輸入)
	H27=100	前期比(%)	H27=100	前期比(%)	件数	百万円	前年比(%)	百万円	前年比(%)	百万円	前年比(%)	百万円
(参考)H31.1-3月	88.9	4.5	76.3	△ 1.0	11	1,378	△ 11.8	10,182	163.5	40,716	△ 11.9	△ 30,534
(参考)R2.1-3月	83.9	0.6	70.7	△ 6.8	10	1,457	5.7	5,475	△ 46.2	35,041	△ 13.9	△ 29,566
(参考)R3.1-3月	78.3	5.2	70.1	1.3	16	6,519	347.4	7,326	33.8	21,198	△ 39.5	△ 13,872
R4.1-3月	75.6	△ 3.6	63.9	△ 8.5	13	3,764	△ 42.3	34,188	366.7	29,013	36.9	5,175
4-6月	75.2	△ 0.5	66.9	4.7	6	290	△ 83.3	6,793	△ 67.2	79,285	209.9	△ 72,492
7-9月	70.8	△ 5.9	66.6	△ 0.4	5	558	210.0	16,457	228.3	96,844	128.0	△ 80,387
10-12月	70.1	△ 1.0	65.0	△ 2.4	10	1,508	△ 41.0	16,565	39.1	99,518	161.8	△ 82,953
R5.1-3月	76.0	8.4	62.1	△ 4.5	11	703	△ 81.3	8,788	△ 74.3	54,893	89.2	△ 46,105
R4.1月	76.2	△ 9.9	65.1	△ 8.3	4	2,819	803.5	1,487	△ 1.9	10,879	64.9	△ 9,392
2月	73.7	△ 3.3	60.9	△ 6.5	1	10	△ 97.8	26,803	1,903.2	7,401	0.7	19,402
3月	77.0	4.5	65.8	8.0	8	935	△ 83.7	5,898	31.9	10,733	48.1	△ 4,835
4月	81.3	5.6	68.2	3.6	2	170	359.5	2,636	△ 84.5	17,259	131.8	△ 14,623
5月	70.9	△ 12.8	63.4	△ 7.0	4	120	△ 91.2	2,144	14.1	30,003	193.9	△ 27,859
6月	73.3	3.4	69.2	9.1	0	0	—	2,013	10.4	32,023	304.0	△ 30,010
7月	70.2	△ 4.2	66.4	△ 4.0	1	94	△ 39.0	2,104	58.6	41,883	262.2	△ 39,779
8月	69.1	△ 1.6	64.9	△ 2.3	3	381	—	1,539	△ 10.5	23,950	2.2	△ 22,411
9月	73.0	5.6	68.6	5.7	1	83	219.2	12,814	551.8	31,011	314.5	△ 18,197
10月	72.1	△ 1.2	65.6	△ 4.4	4	816	88.0	2,285	△ 46.8	22,551	61.2	△ 20,266
11月	68.0	△ 5.7	63.7	△ 2.9	2	75	△ 76.6	8,149	48.4	25,200	123.5	△ 17,051
12月	70.3	3.4	65.6	3.0	4	617	△ 65.8	6,131	189.2	51,767	306.0	△ 45,636
R5.1月	75.0	6.7	61.9	△ 5.6	2	128	△ 95.5	1,061	△ 28.6	17,031	56.5	△ 15,970
2月	75.6	0.8	59.5	△ 3.9	3	430	4,200.0	1,800	△ 93.3	12,348	66.8	△ 10,548
3月	77.3	2.2	64.9	9.1	6	145	△ 84.5	5,927	0.5	25,514	137.7	△ 19,587

- 1-3月期の実質 GDP 成長率(季節調整済)は、前期比 0.7%(年率 2.7%)増と2四半期連続のプラス成長となった。コロナウイルスの流行が落ち着いたことで好調だった国内需要が景気回復をけん引した。



# ＜参考＞関係機関による景況判断

	内閣府 (月例経済報告: 全国)	内閣府 (地域経済動向)	沖縄総合事務局	沖縄振興開発 金融公庫	日銀那覇支店	りゅうぎん総研	おきぎん総研	海邦総研	沖縄県
公表 R4/6  (指標5月)	景気は、持ち直しの動きがみられる。	沖縄地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。			県内景気は、厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。	景気は、持ち直しの動きがみられる。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続くものの、持ち直しの動きがみられる。		景気は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全体としては低迷しているが、一部に持ち直しの動きが見られる。
公表 R4/7  (指標6月)	景気は、緩やかに持ち直している。		管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、持ち直しつつある。	県内景況は、持ち直しの動きがみられる。	県内景気は、厳しい状況にあるが、持ち直している。	景気は、持ち直しの動きがみられる。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くものの、緩やかに持ち直している。	県内景気は緩やかに回復している。	
公表 R4/8  (指標7月)	景気は、緩やかに持ち直している。				県内景気は、厳しい状況にあるが、持ち直している。	景気は、持ち直しの動きが強まる。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くものの、緩やかに持ち直している。		
公表 R4/9  (指標8月)	景気は、緩やかに持ち直している。	沖縄地域では、景気は緩やかに持ち直している。			県内景気は、厳しい状況にあるが、持ち直している。	景気は、持ち直しの動きが強まる。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くものの、緩やかに持ち直している。		景気は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くものの、緩やかに持ち直している。
公表 R4/10  (指標9月)	景気は、緩やかに持ち直している。		管内経済は、緩やかに持ち直している。	県内景況は、持ち直しの動きが広がる。	県内景気は、持ち直している。	景気は、持ち直しの動きが強まる。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐも、緩やかに持ち直している。	県内景気は緩やかに回復している。	
公表 R4/11  (指標10月)	景気は、緩やかに持ち直している。	沖縄地域では、景気は緩やかに持ち直している。			県内景気は、持ち直している。	景気は、回復の動きがみられる。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐも、持ち直しつつある。		
公表 R4/12  (指標11月)	景気は、緩やかに持ち直している。				県内景気は、持ち直している。	景気は、回復の動きがみられる。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐも、持ち直しつつある。		景気は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐも、持ち直しつつある。
公表 R5/1  (指標12月)	景気は、このところ一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。		管内経済は、持ち直している。	県内景況は、回復の動きがある。	県内景気は、持ち直している。	景気は、緩やかに回復している。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐも、持ち直しつつある。	県内景気は緩やかに回復している。	
公表 R5/2  (指標1月)	景気は、このところ一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。				県内景気は、持ち直している。	景気は、緩やかに回復している。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐも、持ち直しつつある。		
公表 R5/3  (指標2月)	景気は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。	沖縄地域では、景気は緩やかに持ち直している。			県内景気は、持ち直している。	景気は、緩やかに回復している。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐも、持ち直しつつある。		景気は、新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、持ち直しつつある。
公表 R5/4  (指標3月)	景気は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。		管内経済は、持ち直している。	県内景況は、回復の動きが広がる。	県内景気は、回復している。	景気は、回復の動きが強まる。	県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐも、着実に回復しつつある。	県内景気は緩やかに回復している。	
公表 R5/5  (指標4月)	景気は、緩やかに回復している。	沖縄地域では、景気は回復している。			県内景気は、回復している。	景気は、回復の動きが強まる。	県内景況は、着実に回復しつつある。		
公表時期	毎月	おおむね3ヶ月毎	3ヶ月毎	3ヶ月毎	毎月	毎月	毎月	3ヶ月毎	3ヶ月毎

注1: 内閣府(月例経済報告)においては、公表月の2ヶ月前の指標に加え、公表日まで得られた指標等も併せて判断している。

注2: 内閣府(地域経済動向)においては、公表月の前月までの指標等も併せて判断している。

注3: 沖縄総合事務局においては、前回判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

注4: 日銀那覇支店においては、概ね公表の前営業日までに入手可能な経済指標(特に明記がない場合、前々月分)や情報を用いて判断している。

## 出 典 一 覧

項 目	出 典
①観光 入域観光客数 主要ホテル客室稼働率 観光施設入場者数	沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課 日本銀行那覇支店 (株)りゅうぎん総合研究所
②個人消費 百貨店・スーパー販売額 コンビニ販売額 家電製品販売額 自動車販売 家計消費支出(二人以上の世帯)	経済産業省 日本銀行那覇支店 経済産業省 沖縄県自動車販売協会 沖縄県企画部統計課
③建設関係 住宅着工 非居住建築物 公共工事保証請負額 建設資材価格指数	国土交通省 国土交通省 西日本建設業保証(株) (一財)経済調査会
④雇用情勢 労働力調査 (労働力人口、就業者数、完全失業者数、完全失業率) 労働市場の動き (求職者数、求人数、有効求人倍率、正社員有効求人倍率) 現金給与総額指数	沖縄県企画部統計課 厚生労働省沖縄労働局 沖縄県企画部統計課
⑤物価 消費者物価指数 レギュラーガソリン小売価格	沖縄県企画部統計課 経済産業省資源エネルギー庁
⑥金融 預金・貸出金残高(県内6行庫計) 地方銀行・約定平均金利(全国) 地元3行貸出約定平均金利(沖縄)	日本銀行 日本銀行 日本銀行那覇支店
⑦関係機関における景況調査等 県内企業短期経済観測調査 法人企業景気予測調査 県内企業景況調査	日本銀行那覇支店 沖縄総合事務局財務部 沖縄振興開発金融公庫
⑧その他 鉱工業指数 企業倒産 沖縄地区税関貿易額 全国の経済成長率等	沖縄県企画部統計課 (株)東京商工リサーチ 財務省沖縄地区税関 内閣府



# 管内経済情勢報告

令和5年4月  
沖縄総合事務局財務部

## 1. 総論

### 【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	




（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。







#### （判断の要点）

個人消費は、持ち直している。観光は、旅行需要喚起策の効果などから、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。

#### 【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
観光	持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	

設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は、「上昇」超幅が縮小している	現状判断は、「上昇」超幅が縮小している	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年を下回っている	前年を上回っている	
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直しつつある	

#### 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売額は、食料品が堅調に推移していることや、各種行事の再開により衣料品に動きがみられることなどから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、観光地周辺の店舗などで好調なことから、前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、前年を上回っている。新車販売台数は、前年を上回っている。中古車販売台数は、前年並みとなっている。家電販売額は、前年を下回っている。このように個人消費は、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 国内観光客も戻ってきており、特に外国観光客が戻りつつあることで、免税売上が回復してきたことは明るい材料。3月は卒入学のオシャレ着や贈答品、お祝い返しなども好調に推移している。(百貨店・スーパー)
- 食料品は引き続き堅調な売れ行きをキープ。総菜は引き続き好調。時短・簡便にというニーズがあるのではないかと。素材の値上がりがあるため、値ごろ感を感じるのかもしれない。衣料については、昨年の反動増もあるが、好調に売り上げを伸ばしており、卒業式・入学式が実施されていることが大きいのではないかと。(百貨店・スーパー)
- キャンプ効果により球場近隣は好調で、観光地周辺店舗では売上が対前年比2倍近い店舗もあるほか、住宅地周辺店舗では土日の売上の伸びが高いことから、地元客の動きも活発化している。(コンビニエンスストア)
- コロナはだいぶ落ち着いてきたが、引き続き、総合感冒薬、解熱鎮痛剤などが好調に推移。3月に入ってからメイク化粧品などに動きが出ており、直近では、来店客数(既存店)でも対前年比を上回っている。(ドラッグストア)
- 生産回復により受注分の納車ができてきたおかげで、登録ベースでは数字はよくなっている。(自動車販売店)
- 2月頃から客足は戻っている印象。1-3月期は新生活準備のため、1年で一番売れる時期だが、昨年7月頃をピークとして仕入れ価格は落ち着いてきており、販売台数としても前年並みを確保した。(中古自動車販売店)
- 物価高に加え、人流回復で、レジャーなどのサービスに消費マインドが向いており、家電などの耐久消費財には消費が向いてない。TVやPCは買い替えサイクルも一巡し厳しいが、省エネ製品への買い替え需要がみられる。(家電量販店)

### ■ 観光 「持ち直している」

入域観光客数は、国内客は、旅行需要喚起策の効果などから増加している。外国客は、再開された国際線の拡大などから増加している。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように観光は、持ち直している。

- 全国旅行支援延長の公表が遅く、リードタイム(予約から旅行日までの期間)が短かった。延長の公表待ちの人も多く、1月は同支援策の効果をあまり感じられなかった。2月、3月から効果が出始め、好調となった。春休みのファミリー客の予約が好調。(旅行)
- 2月はプロ野球キャンプの応援や去年延期となった修学旅行があり、好調。3月の宿泊人数比(2019年同月比)は、70~75%の見込み。春休みの卒業旅行等の団体需要を取り込むことが出来ており、好調を維持している。(宿泊)
- 今期の国内客については、コロナ禍前の同時期よりも多くなっている。(旅行)
- 修学旅行はコロナ第8波の影響も懸念されたが、キャンセルもほとんど無く予定通り行われた。前期(10-12月期)から延期した分もあり、多くの学校が来県したと思う。次年度も現在のところキャンセルの動き無し。(他運輸)
- 企業の報奨旅行等、団体客の利用が増えている。秋口にかけてまで予約は好調である。(宿泊)
- インバウンドは戻ってきてはいるが、まだまだ弱い。2-3月は人数比(2019年同月比)で15%。東京や京都等の定番の観光地から先に戻っている。沖縄はその次ではないか。(旅行)
- バス・レンタカー不足について、前期10-12月は修学旅行の繁忙期であり影響が見られたが、今期1-3月期は予約キャンセルに繋がるようなことは無かった。(娯楽)
- 観光客の需要は旺盛であるが、対応できる人員が不足しており、稼働は意図的に抑えている。忙しい時間帯は、事務員や管理職総出で対応している状況。(レンタカー)
- GWの旅客数は2019年度比で約6割。GWが近づくに連れて上がってきてはいるが、思ったよりも伸びない。コロナ前の水準にはまだ及ばない。(他運輸)

## ■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率（季節調整値）は、上昇している。新規求人数は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業など、多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数（新規求職申込件数）は、前年を下回っている。このように雇用情勢は、持ち直している。

- 2月の有効求人倍率（季節調整値）は1.12倍であり、昨年8月から7カ月連続の1倍超えとなった。正社員有効求人倍率は0.67倍であり、2月としては過去最高値。処遇改善の求人が増加していることがうかがえる。（公的機関）
- 今期1～3月期の特徴として、正社員の求人数が増加している。コロナ直前の令和2年の同時期と比べても多くなっている。（求人誌出版）
- 観光業が回復しつつあるなかで、店舗のアルバイト従業員などが夏場の観光ハイシーズンの時期に、より時給の高いホテル等へ流れて、採用しにくくなるという懸念がある。（コンビニエンスストア）
- 人手不足により、レストランの営業に支障が出ており、受け入れ人数を制限している。また、ガイドも不足しており、需要機会を逸失している。（娯楽）
- 人手不足は変わらず、時給を上げて募集するも、全く応募が無い。就職する学生アルバイトの補充もできない。派遣社員を採用したいが紹介は無く、派遣会社からは時給を更に上げた方が良いのではとされている。（レンタカー）
- 昨年12月から初任給を3万円アップ。その効果もあり、外国人従業員を3名採用できた。既存の従業員もベアを実施。当社としては借入れがあるなかで経営負担があるが、人材離れを防止するために賃上げを優先した。（宿泊）

## ■ 設備投資 「4年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年1～3月期

- 製造業では、前年度を46.8%下回る見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、不動産・物品賃貸で減少するものの、電気・ガス・水道、金融・保険で増加することなどから、全体では前年度を28.1%上回る見込みとなっている。

- 今年度は工場設備の新設などを予定しているものの、減少見込みである。（食料品）
- 今年度は店舗の建替え工事などを予定しており、増加見込みである。（金融・保険）

## ■ 企業収益 「4年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年1～3月期

- 製造業では、31.4%の減益見込みとなっている。
- 非製造業では、建設などで減益となるものの、不動産・物品賃貸で黒字転化となることなどから、全体では56.7%の増益見込みとなっている。

## ■ 企業の景況感 「現状判断は、「上昇」超幅が縮小している」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年1～3月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超幅が縮小している。先行きは5年4～6月期は「上昇」と「下降」の均衡となり、5年7～9月期は「上昇」超となる見通しとなっている。

## ■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数は、持家で前年を下回っているものの、貸家、分譲で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

## ■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（4年度累計）は、前年を上回っている。

## ■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

- 生産活動は、観光需要の回復により足下で食料品に持ち直しに向けた動きがみられることなどから、緩やかに持ち直しつつある。



## 參考資料

# 1. 個人消費 …持ち直している

百貨店・スーパー販売額は、食料品が堅調に推移していることや、各種行事の再開により衣料品に動きがみられることなどから、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、観光地周辺の店舗などで好調なことから、前年を上回っている。

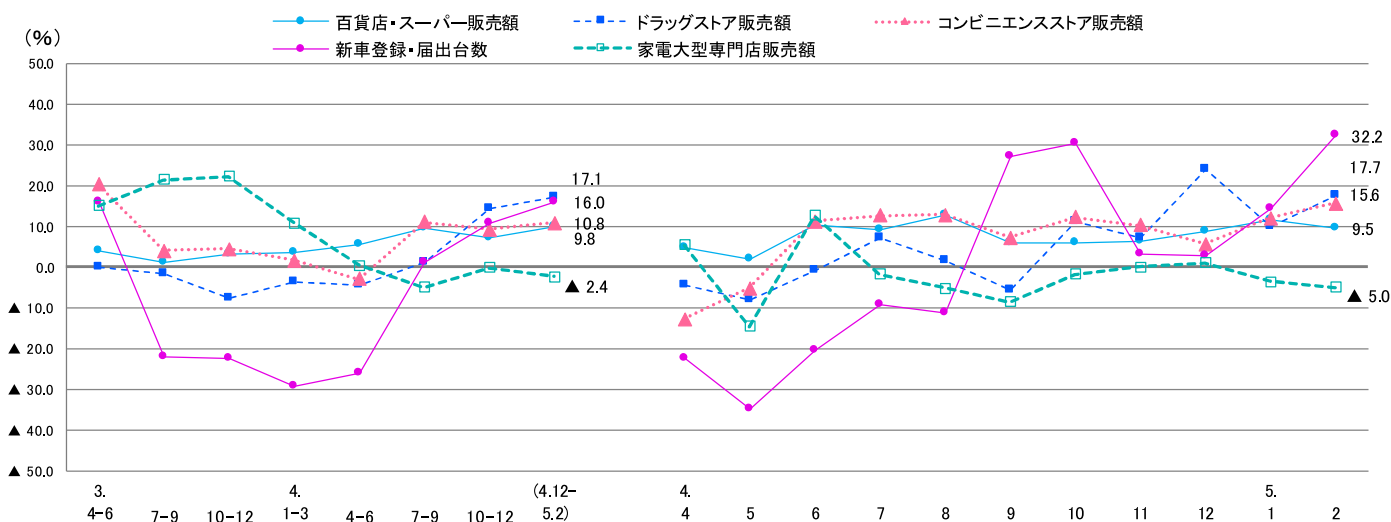
ドラッグストア販売額は、前年を上回っている。

新車販売台数は、前年を上回っている。中古車販売台数は、前年並みとなっている。

家電販売額は、前年を下回っている。

このように個人消費は、持ち直している。

○百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額、新車登録・届出台数、家電大型専門店販売額（前年比）



（単位：前年比、%）

	百貨店・スーパー販売額	コンビニエンスストア販売額	ドラッグストア販売額	新車登録・届出台数	中古車登録・届出台数	家電大型専門店販売額	消費者物価指数
	全店	全店	全店			全店	
2年	▲ 3.9	-	▲ 3.4	▲ 9.6	0.3	5.6	▲ 0.3
3年	2.1	6.8	▲ 4.8	▲ 3.8	1.6	21.2	0.0
4年	6.4	4.7	1.5	▲ 13.2	▲ 7.8	1.3	2.8
4. 4～6	5.6	▲ 3.0	▲ 4.5	▲ 25.8	▲ 11.1	0.5	2.9
4. 7～9	9.4	11.0	1.0	1.0	▲ 7.0	▲ 5.0	3.4
4. 10～12	7.1	9.3	14.2	10.7	▲ 3.1	▲ 0.2	4.1
(4. 12～5. 2)	9.8	10.8	17.1	16.0	▲ 0.3	▲ 2.4	3.5
4. 9	6.0	7.3	▲ 5.5	27.1	▲ 14.0	▲ 8.5	3.6
10	5.8	12.3	11.3	30.3	▲ 5.7	▲ 1.8	4.3
11	6.5	10.3	7.2	3.2	▲ 1.1	0.0	4.2
12	8.7	5.7	23.8	2.8	▲ 2.2	1.0	3.7
5. 1	11.4	12.0	9.9	14.3	▲ 1.4	▲ 3.6	4.0
2	9.5	15.6	17.7	32.2	2.7	▲ 5.0	2.8

（資料） 百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア及び家電大型専門店販売額：経済産業省、沖縄総合事務局  
 新車登録・届出台数：沖縄県自動車販売協会  
 中古車登録・届出台数：沖縄県中古自動車販売協会、軽自動車検査協会沖縄事務所  
 消費者物価指数：沖縄県

（注1） 百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア及び家電大型専門店販売額は全店ベース。

（注2） 新車登録・届出台数はレンタカー除く。

（注3） 消費者物価指数(令和2年=100)は沖縄県の生鮮食品を含む総合。四半期計数は3ヶ月間の単純平均。

（注4） ドラッグストア販売額の令和4年1月～令和4年12月の数値は年間補正により訂正。

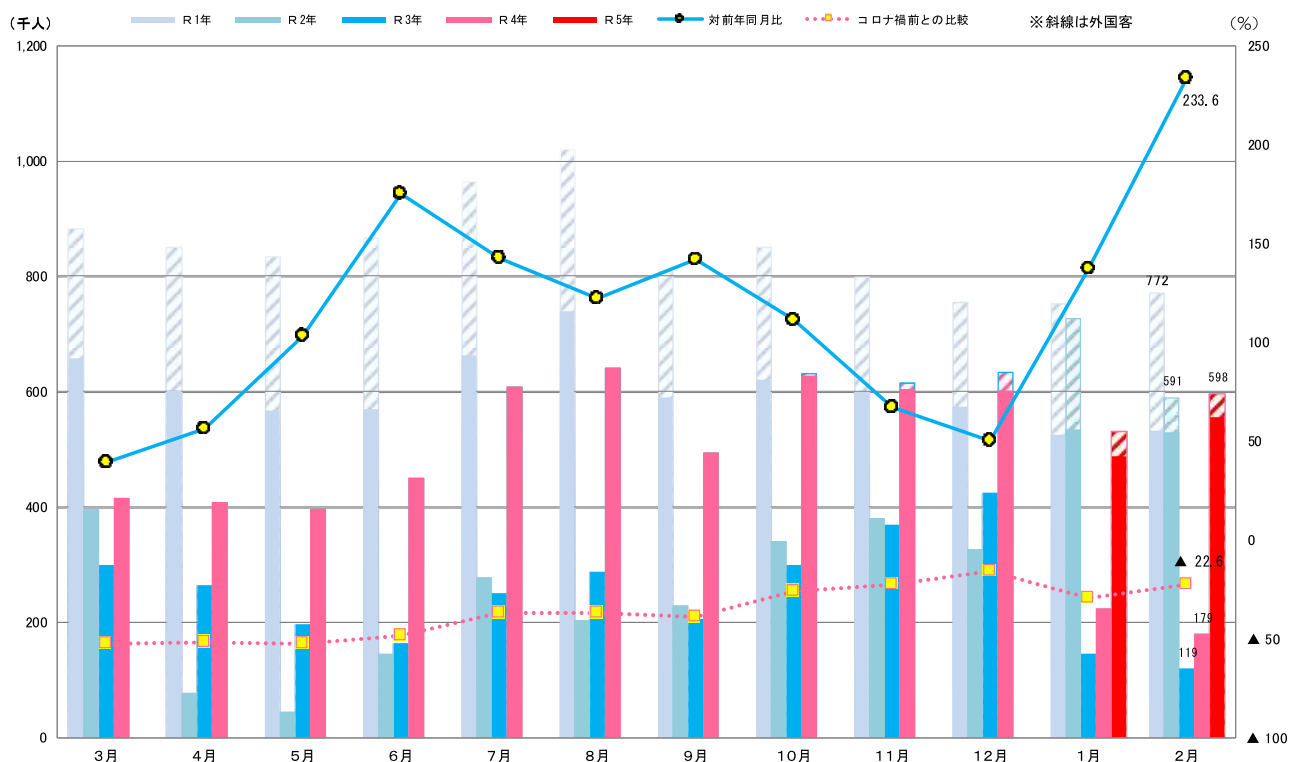
## 2. 観 光 … 持ち直している

入域観光客数は、国内客は、旅行需要喚起策の効果などから増加している。外国客は、再開された国際線の拡大などから増加している。

ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。

このように観光は、持ち直している。

### ○入域観光客数



(単位:千人、%)

	入域観光客数				R元年比	観光関連施設入場者数	
	(千人)	前年比	国内客前年比	外国客前年比		(千人)	前年比
30年度	10,004	4.4	1.7	11.5	-	8,284	▲ 1.3
元年度	9,469	▲ 5.3	▲ 0.4	▲ 17.0	-	7,142	▲ 13.8
2年度	2,584	▲ 72.7	▲ 63.0	皆減	-	1,538	▲ 78.5
3年度	3,274	26.7	26.7	-	-	1,454	▲ 5.5
4年度	-	-	-	-	-	4,129	183.9
4. 4~6	1,254	102.1	102.1	-	▲ 50.9	634	124.2
7~9	1,743	134.5	134.5	皆増	▲ 37.6	938	865.4
10~12	1,881	72.4	68.1	皆増	▲ 21.8	1,215	96.5
5. 1~3	-	-	-	-	-	1,341	194.4
(4. 12~ 5. 2)	1,765	113.3	98.7	皆増	▲ 22.6	-	-
4. 10	631	110.9	110.0	皆増	▲ 25.9	388	152.2
11	615	67.1	63.8	皆増	▲ 23.0	420	88.1
12	635	49.9	42.2	皆増	▲ 15.9	407	68.7
5. 1	532	137.0	117.0	皆増	▲ 29.4	392	214.1
2	598	233.6	209.4	皆増	▲ 22.6	414	299.4
3	-	-	-	-	-	535	135.7

(資料) 入域観光客数: 沖縄県 観光関連施設入場者数: 沖縄総合事務局、各観光関連施設

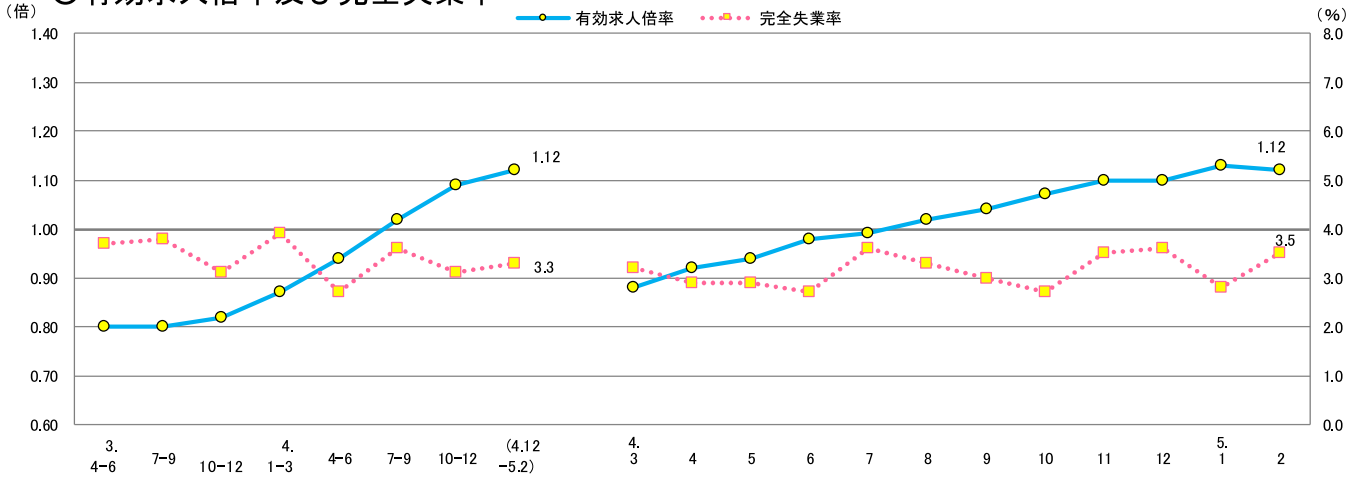
(注) 観光関連施設は国営沖縄記念公園(海洋博・首里城)、玉陵、識名園、中城城跡及び今帰仁城跡。

### 3. 雇用情勢 … 持ち直している

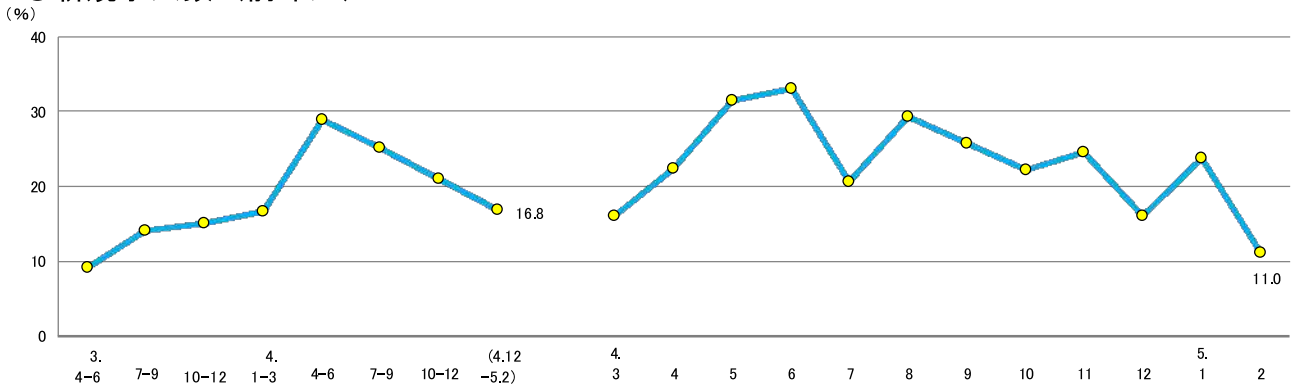
有効求人倍率(季節調整値)は、上昇している。新規求人数は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業など、多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数(新規求職申込件数)は、前年を下回っている。

このように雇用情勢は、持ち直している。

○有効求人倍率及び完全失業率



○新規求人数 (前年比)



(単位: %ポイント、%、倍)

	有効求人倍率		新規求人数	新規求職申込件数	完全失業率		雇用保険受給者実人員	所定外労働時間(指数)
	(季調値)	前月(年・期)差	前年比	前年比	原数値	季調値	前年比	前年比
2年	0.90	▲ 0.44	▲ 27.2	▲ 0.8	3.3	—	36.5	▲ 10.6
3年	0.80	▲ 0.10	2.6	5.7	3.7	—	▲ 10.4	▲ 2.0
4年	0.98	0.18	22.5	1.0	3.2	—	3.9	11.5
4. 1~3	0.87	0.05	16.7	8.9	3.9	—	▲ 12.1	16.1
4. 4~6	0.94	0.07	28.9	6.8	2.7	—	▲ 10.0	17.4
4. 7~9	1.02	0.08	25.2	▲ 7.3	3.6	—	▲ 13.6	10.6
4. 10~12	1.09	0.07	21.0	▲ 7.4	3.1	—	▲ 18.7	3.4
4. (4.12~5.2)	1.12	0.05	16.8	▲ 9.3	3.3	—	▲ 14.5	—
4. 9	1.04	0.02	25.7	▲ 2.7	3.1	3.0	▲ 17.1	11.9
4. 10	1.07	0.03	22.2	▲ 10.5	2.5	2.7	▲ 18.0	5.0
4. 11	1.10	0.03	24.5	▲ 7.2	3.1	3.5	▲ 20.0	3.9
4. 12	1.10	0.00	16.1	▲ 3.3	3.5	3.6	▲ 18.1	1.5
5. 1	1.13	0.03	23.7	▲ 6.7	2.8	2.8	▲ 14.1	▲ 3.8
5. 2	1.12	▲ 0.01	11.0	▲ 14.2	3.6	3.5	▲ 10.8	—

(資料) 有効求人倍率、新規求人数、新規求職申込件数、雇用保険受給者実人員: 厚生労働省、沖縄労働局

完全失業率: 総務省、沖縄県 所定外労働時間: 沖縄県

(注1) 有効求人倍率及び完全失業率(季調値)の令和4年12月以前の数値は新季節指数により改訂。

(注2) 有効求人倍率と新規求人数は就業地ベース

#### 4. 設備投資 … 4年度は前年度を上回る見込み 5年度は前年度を下回る見通し (注:ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く)

4年度の設備投資計画額を法人企業景気予測調査(5年1~3月期)でみると、全産業では前年度を26.0%上回る見込み(電気・ガス・水道を除くと2.5%下回る見込み)となっている。

業種別にみると、製造業では、前年度を46.8%下回る見込みとなっている。  
非製造業では、卸売・小売、不動産・物品賃貸で減少するものの、電気・ガス・水道、金融・保険で増加することなどから、全体では前年度を28.1%上回る見込みとなっている。

5年度の設備投資計画額は、全産業で前年度を9.8%下回る見通しとなっている。

(前年度比増減率:%)

	4年度	5年度
全産業	(30.8) 26.0	▲ 9.8
電気・ガス・水道を除く全産業	(6.6) ▲ 2.5	▲ 28.6
製造業	(▲25.7) ▲ 46.8	24.9
非製造業	(32.4) 28.1	▲ 10.3
建設業	(198.4) 188.9	▲ 93.5
情報通信業	(3.7) 3.9	▲ 89.1
運輸業、郵便業	(633.3) 572.7	▲ 95.1
卸売業、小売業	(▲50.3) ▲ 46.7	103.6
不動産業、物品賃貸業	(▲36.1) ▲ 43.3	21.1
サービス業	(51.3) 42.2	▲ 51.5
金融業、保険業	(67.9) 40.8	▲ 22.8

(参考) ソフトウェア投資額及び土地購入額を除く

(前年度比増減率:%)

	4年度	5年度
全産業	(26.5) 23.1	▲ 10.4
製造業	(▲32.4) ▲ 52.0	23.4
非製造業	(28.3) 25.4	▲ 10.9

- (注) 1. ( )書きは前回調査(4年10~12月期)結果  
2. 4年度は3年度・4年度ともに回答のあった企業  
3. 5年度は4年度・5年度ともに回答のあった企業

## 5. 企業収益 … 4年度は増益見込み、5年度は増益見通し

(注：電気・ガス・水道、金融・保険を除く)

経常利益を法人企業景気予測調査(5年1～3月期)でみると、4年度は、全産業で55.5%の増益見込みとなっている。

業種別にみると、製造業では、31.4%の減益見込みとなっている。

非製造業では、建設などで減益となるものの、不動産・物品賃貸で黒字転化となることなどから、全体では56.7%の増益見込みとなっている。

5年度は、全産業で8.8%の増益見通しとなっている。

(前年度比増減率：%)

	4年度	5年度
全産業	(54.1) 55.5	8.8
製造業	(▲95.4) ▲31.4	—
非製造業	(56.2) 56.7	8.4
建設業	(▲21.4) ▲49.4	26.7
情報通信業	(0.6) ▲0.1	▲4.8
運輸業、郵便業	(*) —	—
卸売業、小売業	(▲6.9) ▲8.0	0.1
不動産業、物品賃貸業	(*) *	9.5
サービス業	(490.9) 300.0	8.9

(参考) 全規模・全業種

(前年度比増減率：%)

	4年度	5年度
全産業	(▲88.2) ▲90.5	7.8
製造業	(▲95.4) ▲31.4	—
非製造業	(▲88.1) ▲90.9	7.4

- (注) 1. ( )書きは前回調査(4年10～12月期)結果  
 2. 4年度は、3年度・4年度ともに回答のあった企業  
 3. 5年度は、4年度・5年度ともに回答のあった企業  
 4. 黒字転化を「\*」と表示  
 5. 赤字縮小を「—」と表示  
 6. 赤字拡大を「—」と表示

## 6. 企業の景況感 … 現状判断は「上昇」超幅が縮小 先行きは「上昇」と「下降」の均衡となった後、 「上昇」超となる見通し

(現状判断)

企業の景況判断BSIを法人企業景気予測調査(5年1~3月期)で見ると、全産業では、「上昇」超幅が縮小している。

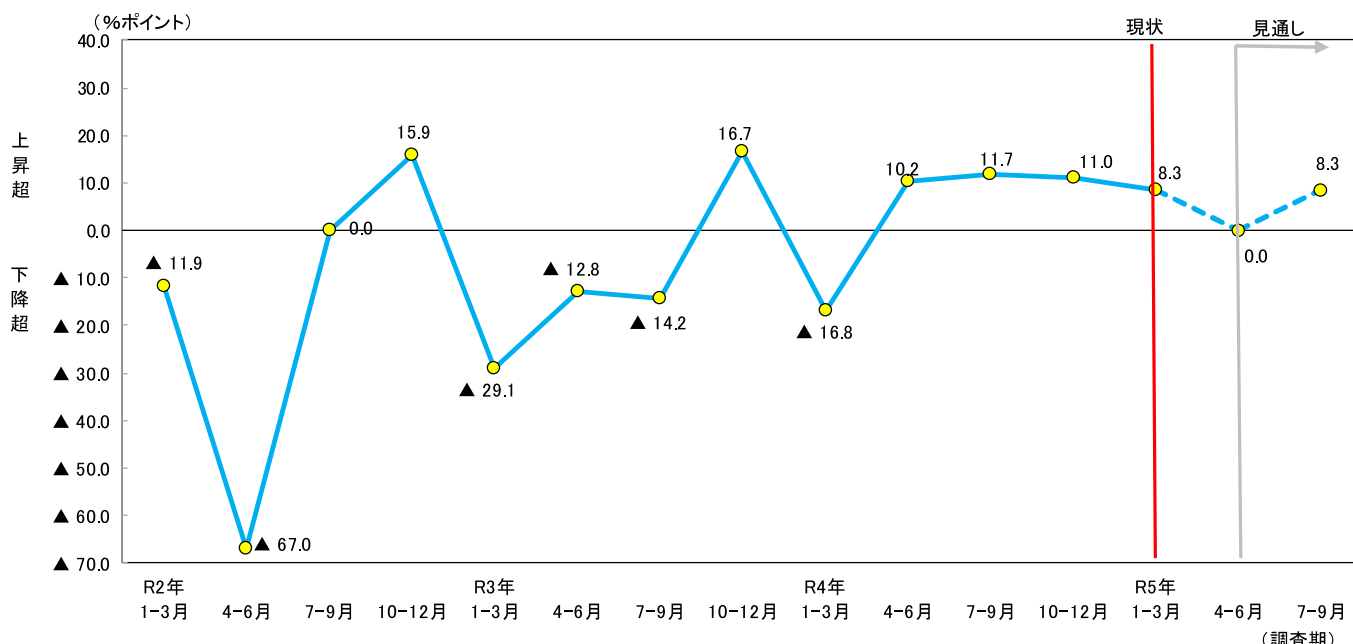
業種別にみると、製造業では、「上昇」超幅が縮小している。非製造業では、建設で「上昇」超幅が拡大しているものの、運輸・郵便で「下降」超に転じていることなどから、全体では「上昇」超幅が縮小している。

規模別にみると、大企業で「下降」超に転じ、中堅企業で「上昇」超幅が拡大し、中小企業で「上昇」超幅が縮小している。

(先行き)

先行き(全産業)については、5年4~6月期は「上昇」と「下降」の均衡となり、5年7~9月期は「上昇」超となる見通しとなっている。

【企業の景況判断BSIの推移(全産業)】



【企業の景況判断BSI(原数値)】

(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

(単位:%ポイント)

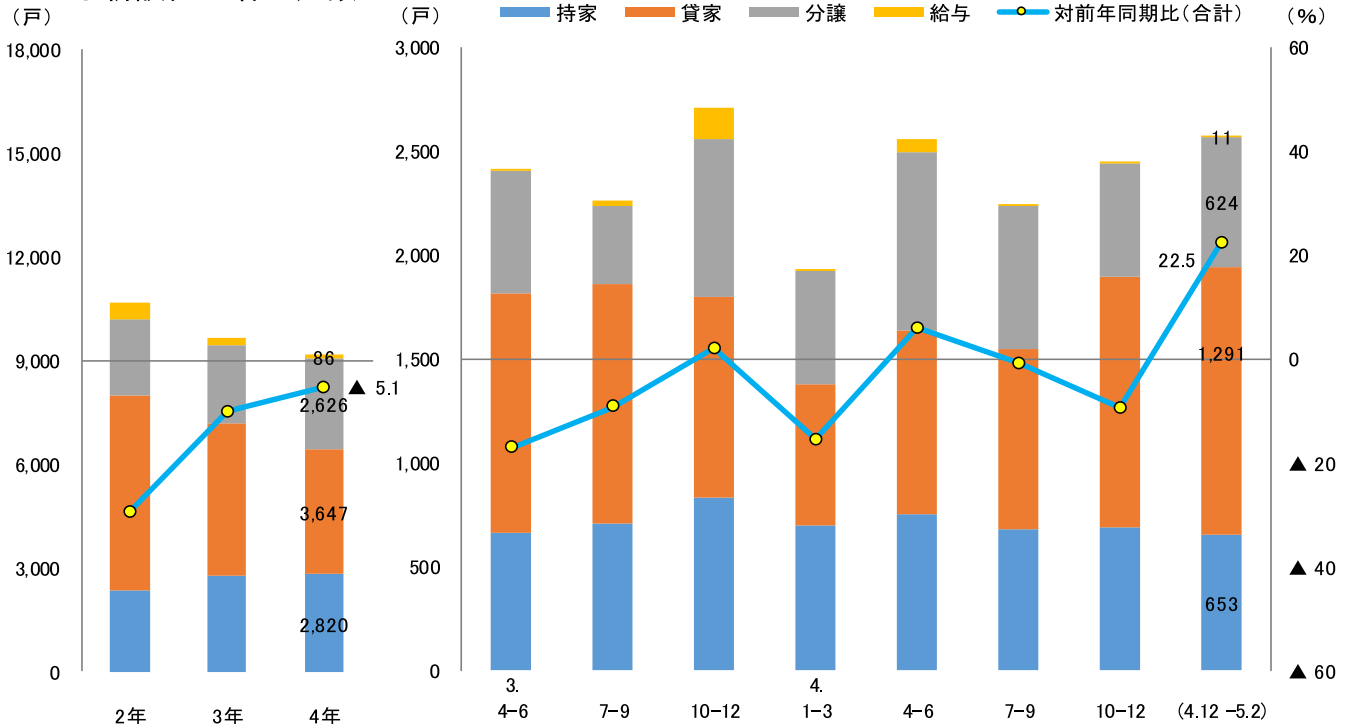
	4年10~12月 前回調査	5年1~3月 現状判断	5年4~6月 見通し	5年7~9月 見通し
全産業	11.0	(6.4) 8.3	(2.8) 0.0	8.3
製造業	25.0	(0.0) 23.1	(▲16.7) ▲7.7	7.7
非製造業	9.3	(7.2) 6.3	(5.2) 1.1	8.4
建設業	6.3	(25.0) 31.3	(▲12.5) ▲18.8	18.8
情報通信業	28.6	(14.3) 14.3	(28.6) ▲28.6	0.0
運輸業、郵便業	71.4	(28.6) ▲57.1	(14.3) 14.3	14.3
卸売業、小売業	▲11.1	(▲22.2) ▲11.1	(0.0) ▲11.1	0.0
不動産業、物品賃貸業	5.6	(5.6) 11.1	(▲5.6) ▲5.6	0.0
サービス業	4.0	(8.0) 8.7	(16.0) 34.8	8.7
規模別				
大企業	5.9	(▲11.8) ▲6.3	(5.9) 18.8	18.8
中堅企業	4.2	(8.3) 12.5	(12.5) ▲16.7	12.5
中小企業	14.7	(10.3) 10.3	(▲1.5) 1.5	4.4

(注) ( ) 書きは前回調査(4年10~12月期)時の見通し

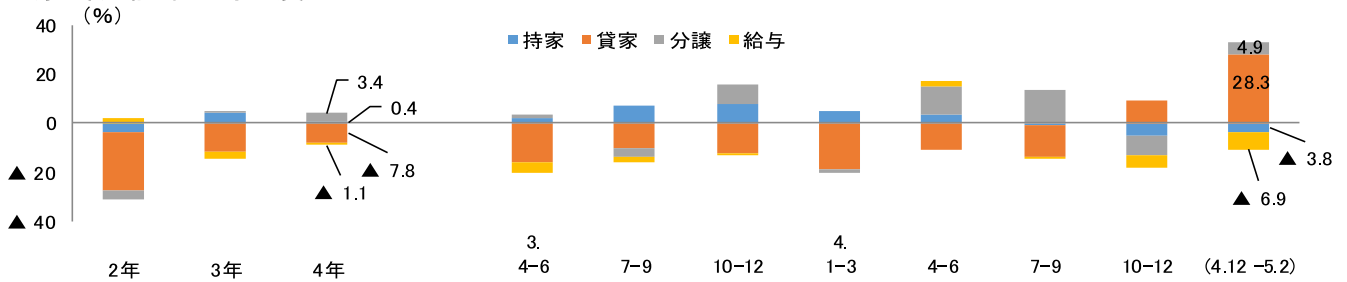
## 7. 住宅建設 … 前年を上回っている

新設住宅着工戸数は、持家で前年を下回っているものの、貸家、分譲で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

○新設住宅着工戸数



(参考) 前年比寄与度



(注) 小数点第2位以下を四捨五入しているため、寄与度は「対前年同期比(合計)」と一致しない場合がある。

(単位: 戸、%)

	新設住宅着工戸数(沖縄県)							新設住宅着工戸数(全国)			
	合計	前年比	持家	前年比	貸家	前年比	分譲	前年比	合計	前年比	
2年	10,703	▲ 29.1	2,338	▲ 20.0	5,683	▲ 38.4	2,204	▲ 21.0	815,340	▲ 9.9	
3年	9,668	▲ 9.7	2,782	19.0	4,399	▲ 22.6	2,293	4.0	856,484	5.0	
4年	9,179	▲ 5.1	2,820	1.4	3,647	▲ 17.1	2,626	14.5	859,529	0.4	
4.	4~6	2,561	5.9	755	13.7	885	▲ 23.4	856	45.3	218,135	▲ 1.3
	7~9	2,239	▲ 0.9	683	▲ 3.1	863	▲ 25.4	690	82.5	224,759	0.0
	10~12	2,452	▲ 9.5	687	▲ 17.5	1,213	25.2	542	▲ 27.9	216,211	▲ 1.6
(4.12 ~ 5.2)	2,579	22.5	653	▲ 11.0	1,291	85.5	624	20.0	195,279	1.3	
4.	9	698	▲ 2.1	247	▲ 8.5	272	▲ 14.7	178	56.1	74,004	1.1
	10	648	▲ 27.8	223	▲ 18.9	313	▲ 10.6	106	▲ 60.9	76,590	▲ 1.8
	11	777	▲ 11.9	217	▲ 14.6	323	▲ 9.8	233	▲ 13.4	72,372	▲ 1.4
	12	1,027	10.3	247	▲ 18.8	577	121.1	203	▲ 4.2	67,249	▲ 1.7
5.	1	895	41.4	174	▲ 17.1	444	49.0	266	112.8	63,604	6.6
	2	657	21.2	232	5.5	270	97.1	155	▲ 15.3	64,426	▲ 0.3

(資料) 国土交通省

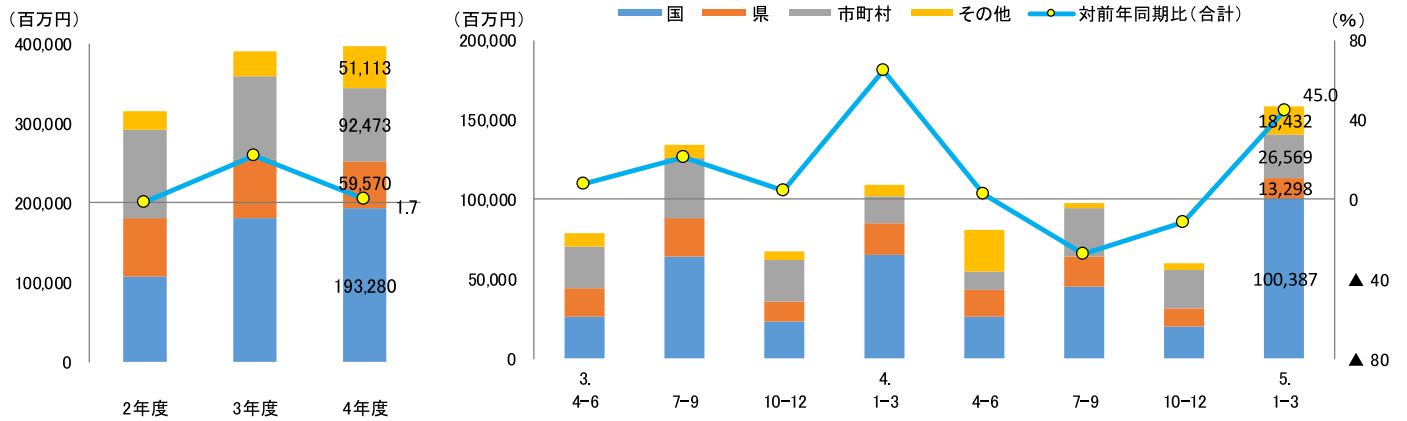
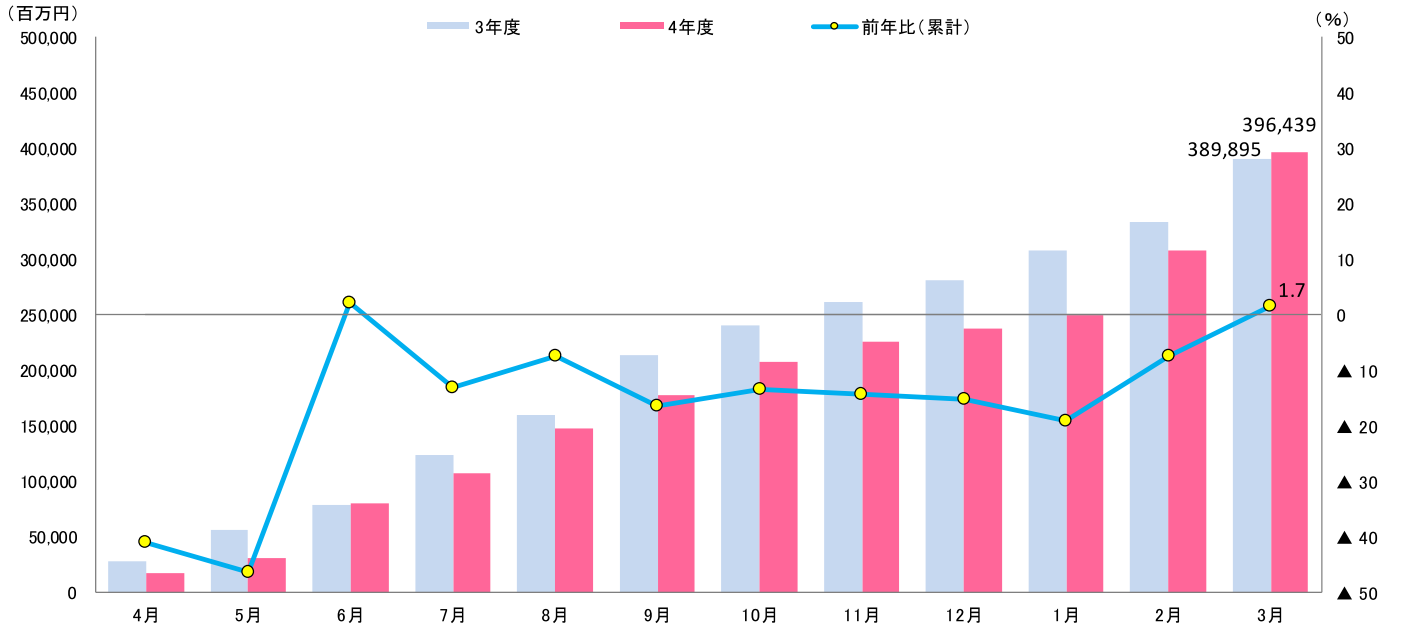
(注) 合計については給与住宅の数値含む。



## 8. 公共事業 … 前年を上回っている

公共工事前払金保証請負額（4年度累計）は、前年を上回っている。

### ○公共工事前払金保証請負額



(単位:百万円、%)

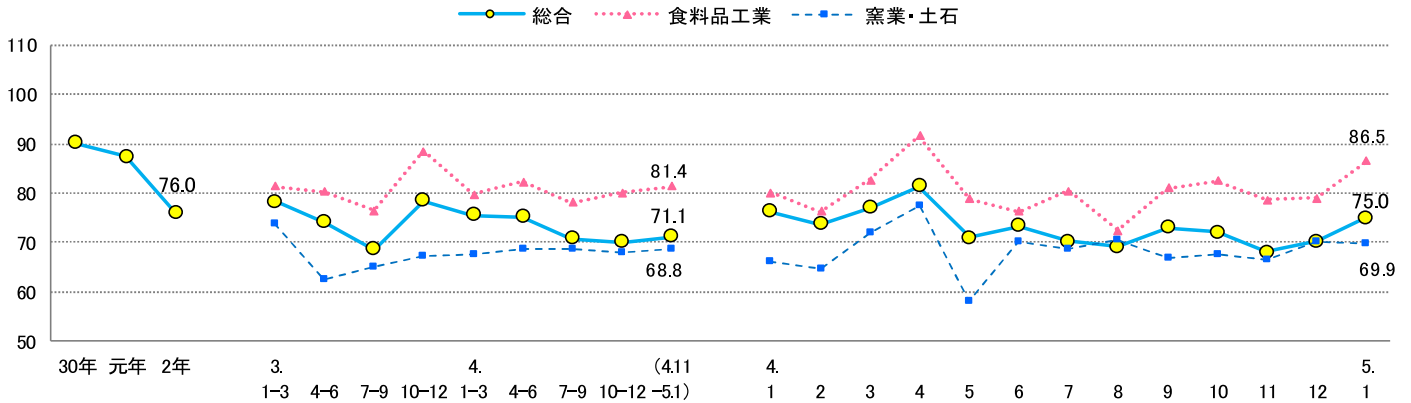
	公共工事前払金保証請負額											
	累計		合計		国		県		市町村		独立行政法人等、その他	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	公共的団体	前年比	前年比	
2年度	314,812	0.5	—	—	106,919	9.5	72,981	9.2	112,397	▲ 5.8	22,513	▲ 23.9
3年度	389,895	23.8	—	—	180,064	68.4	73,944	1.3	106,198	▲ 5.5	29,686	31.9
4年度	396,439	1.7	—	—	193,280	7.3	59,570	▲ 19.4	92,473	▲ 12.9	51,113	72.2
4. 4~6	—	—	80,696	2.3	26,980	0.6	15,823	▲ 7.9	12,304	▲ 53.0	25,586	195.7
7~9	—	—	97,308	▲ 27.4	45,605	▲ 29.0	19,073	▲ 21.0	29,553	▲ 22.0	3,068	▲ 60.5
10~12	—	—	59,740	▲ 11.5	20,303	▲ 13.5	11,370	▲ 10.6	24,043	▲ 6.2	4,017	▲ 28.6
5. 1~3	—	—	158,692	45.0	100,387	53.3	13,298	▲ 33.1	26,569	61.5	18,432	142.0
4. 10	207,746	▲ 13.5	29,741	8.8	9,599	7.2	4,675	▲ 28.4	13,522	29.8	1,942	36.4
11	225,119	▲ 14.2	17,372	▲ 21.5	6,469	▲ 32.4	3,576	0.2	6,080	▲ 23.1	1,245	17.3
12	237,746	▲ 15.2	12,627	▲ 22.9	4,235	▲ 14.4	3,119	19.1	4,441	▲ 39.2	830	▲ 73.6
5. 1	249,126	▲ 19.0	11,379	▲ 58.0	3,402	▲ 76.7	2,566	▲ 48.1	4,200	▲ 38.6	1,209	74.7
2	308,631	▲ 7.5	59,505	129.4	49,113	146.5	2,498	▲ 12.3	6,048	94.6	1,844	3,192.9
3	396,439	1.7	87,808	55.7	47,872	54.7	8,234	▲ 31.9	16,321	151.0	15,379	123.9

(資料) 西日本建設業保証株式会社、東日本建設業保証株式会社、北海道建設業保証株式会社

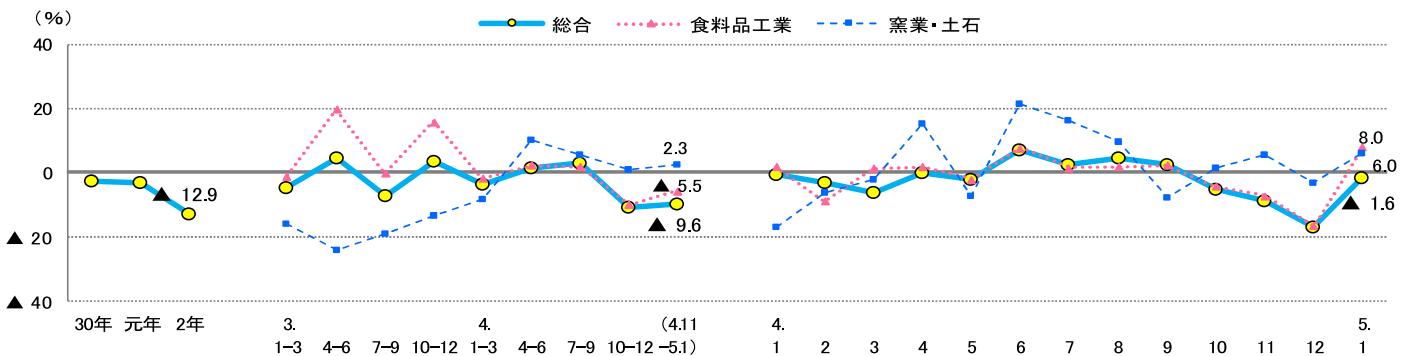
## 9. 生産活動 … 緩やかに持ち直しつつある

生産活動は、観光需要の回復により足下で食料品に持ち直しに向けた動きがみられることなどから、緩やかに持ち直しつつある。

○鉱工業生産指数（季節調整済指数、平成27年=100）



○鉱工業生産指数（原指数前年比、平成27年=100）



(単位: 前期比・前年比、%)

	沖縄県総合 (10000.0)			食料品工業 (4534.5)			窯業・土石 (1794.1)			金属製品 (1340.2)			化学・石油製品 (697.6)			
	指数	前期(月)比	前年比	指数	前期(月)比	前年比	指数	前期(月)比	前年比	指数	前期(月)比	前年比	指数	前期(月)比	前年比	
30年	90.1		▲2.5	84.3		▲5.5	98.3		▲1.0	108.3		6.8	45.7		▲10.6	
元年	87.3		▲3.1	82.6		▲2.0	95.2		▲3.2	112.2		3.6	25.0		▲45.3	
2年	76.0		▲12.9	76.0		▲8.0	81.8		▲14.1	89.0		▲20.7	18.1		▲27.6	
4.	1~3	75.6	▲3.6	▲3.6	79.7	▲9.8	▲1.8	67.6	0.3	▲8.3	94.6	6.9	▲0.4	16.6	▲8.3	▲10.0
	4~6	75.2	▲0.5	1.4	82.2	3.1	2.3	68.6	1.5	10.1	83.0	▲12.3	▲8.0	18.9	13.9	2.7
	7~9	70.8	▲5.9	3.1	78.0	▲5.1	1.9	68.6	0.0	5.6	79.5	▲4.2	▲1.5	18.8	▲0.5	0.6
	10~12	70.1	▲1.0	▲10.8	80.0	2.6	▲10.0	68.0	▲0.9	0.9	65.2	▲18.0	▲26.3	17.7	▲5.9	▲2.7
	(4.11~5.1)	71.1	▲2.2	▲9.6	81.4	▲0.1	▲5.5	68.8	2.7	2.3	61.2	▲22.1	▲36.4	16.5	▲16.2	▲3.4
5.	8	69.1	▲1.6	4.6	72.5	▲9.9	1.8	70.4	2.5	9.7	74.6	▲7.7	▲2.2	18.8	1.1	4.6
	9	73.0	5.6	2.4	81.0	11.7	2.4	66.7	▲5.3	▲7.7	83.1	11.4	4.0	19.0	1.1	▲7.5
	10	72.1	▲1.2	▲5.0	82.5	1.9	▲4.2	67.6	1.3	1.3	69.5	▲16.4	▲13.3	21.1	11.1	5.2
	11	68.0	▲5.7	▲9.0	78.6	▲4.7	▲7.0	66.5	▲1.6	5.3	58.6	▲15.7	▲28.9	16.8	▲20.4	1.8
	12	70.3	3.4	▲16.9	79.0	0.5	▲16.5	70.0	5.3	▲3.2	67.4	15.0	▲34.7	15.2	▲9.5	▲14.6
5.1	75.0	6.7	▲1.6	86.5	9.5	8.0	69.9	▲0.1	6.0	57.5	▲14.7	▲44.8	17.5	15.1	4.2	

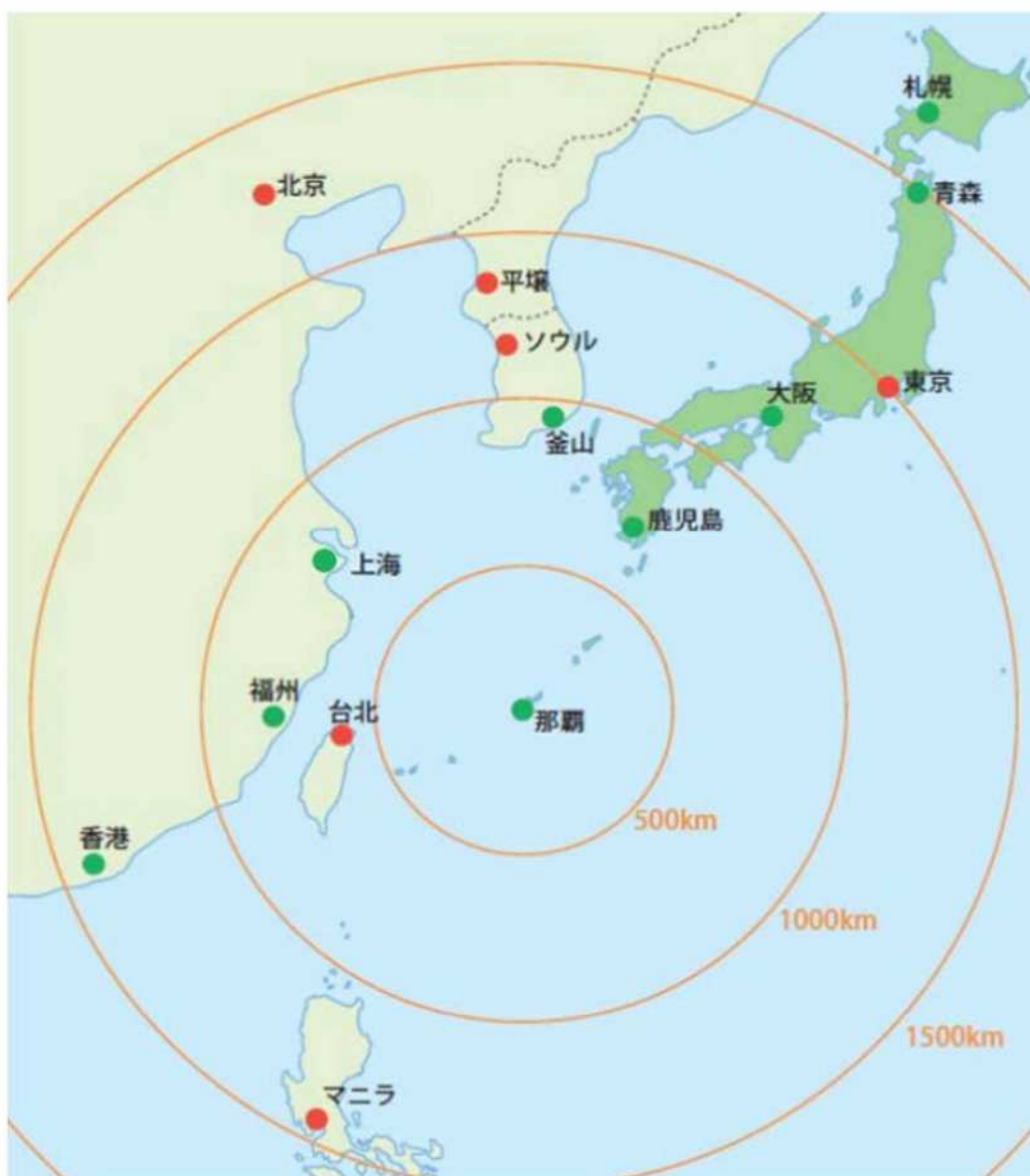
(資料) 沖縄県

(注1) 年の指数及び前年比は原指数。四半期、月の指数及び前期(月)比は季節調整済指数。業種欄( )書きはウエイト。

(注2) 平成31年1月以降の指数は「令和2年年間補正について(令和4年1月31日沖縄県企画部統計課)」により変更されている。

# 法人企業景気予測調査 (令和5年4～6月期調査)

## 沖縄管内分



内閣府 沖縄総合事務局財務部

## 調査の概要

### 調査の目的

本調査は、企業活動の現状と先行き見通しに対する経営者の判断を調査し、経済・財政政策運営の基礎資料を得ることを目的として、統計法に基づく一般統計調査として年4回（2、5、8、11月）実施。

調査の時点 令和5年5月15日

調査対象期間 判断項目：5年4～6月期又は6月末見込み、5年7～9月期又は9月末見通し、5年10～12月期又は12月末見通し

計数項目：5年度実績見込み

**調査対象企業の範囲** 沖縄県内に所在する資本金、出資金又は基金（以下「資本金」という。）1千万円以上（電気・ガス・水道業及び金融業、保険業は資本金1億円以上）の法人

調査対象企業数及び回収状況は次のとおりである。

対象企業数：125社 回答企業数：112社 回収率：89.6%

（単位：社）

	対象企業数	回答企業数	回収率 (%)
全産業	125	112	89.6
製造業	17	17	100.0
非製造業	108	95	88.0
建設業	17	14	82.4
情報通信業	8	7	87.5
運輸業、郵便業	5	5	100.0
卸売業、小売業	18	15	83.3
不動産業、物品賃貸業	18	15	83.3
サービス業	29	26	89.7
大企業（資本金10億円以上）	16	16	100.0
中堅企業（資本金1億円以上10億円未満）	36	32	88.9
中小企業（資本金1千万円以上1億円未満）	73	64	87.7

### B S I（Business Survey Index）の計算方法

例 「景況判断」の場合

前期と比べて

「上昇」と回答した企業の構成比・・・40.0%

「不変」と回答した企業の構成比・・・25.0%

「下降」と回答した企業の構成比・・・30.0%

「不明」と回答した企業の構成比・・・5.0%

B S I =（「上昇」と回答した企業の構成比 40.0%）

－（「下降」と回答した企業の構成比 30.0%） = 10.0%ポイント

## ■ 景況判断 - 現状判断は「上昇」超幅が縮小 先行きは「上昇」超で推移する見通し

(現状判断)

5年4～6月期の企業の景況判断BSIを5年1～3月期と比較すると、全産業では、「上昇」超幅が縮小している。

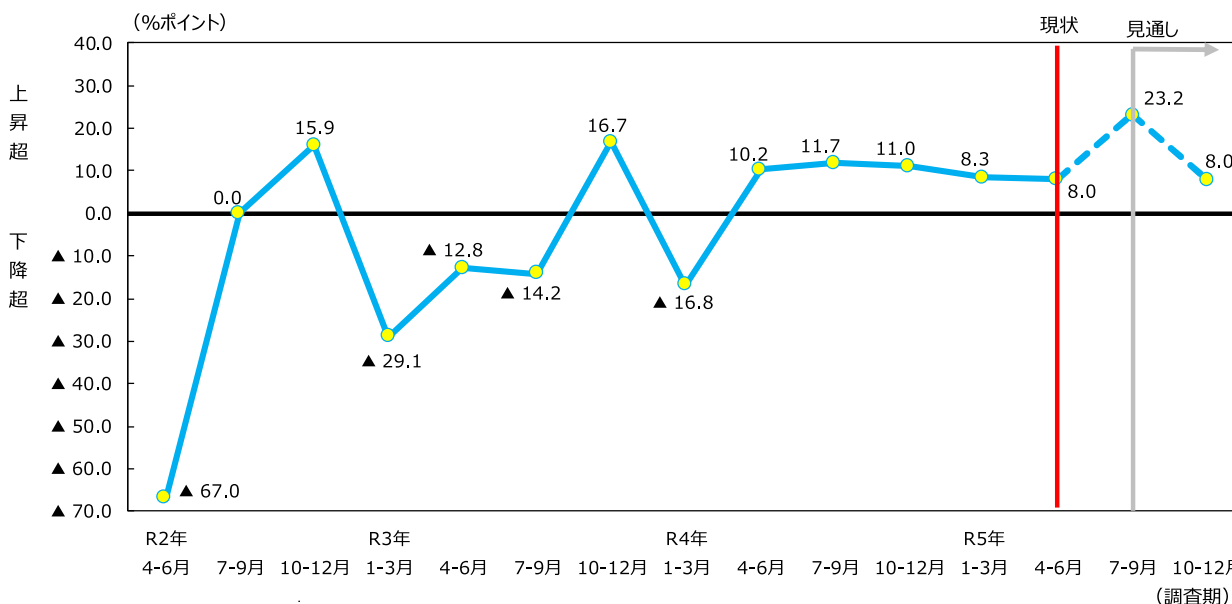
業種別にみると、製造業では、「下降」超に転じている。非製造業では、建設で「下降」超に転じているものの、サービスで「上昇」超幅が拡大していることなどから、全体では「上昇」超幅が拡大している。

規模別にみると、大企業で「上昇」超に転じ、中堅企業で「上昇」超幅が拡大し、中小企業で「下降」超に転じている。

(先行き)

先行き(全産業)については、5年7～9月期は「上昇」超幅が拡大し、5年10～12月期は「上昇」超幅が縮小する見通しとなっている。

【企業の景況判断BSIの推移(全産業)】



【企業の景況判断BSI(原数値)】

(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

(単位: %ポイント)

	5年1～3月 前回調査	5年4～6月 現状判断	5年7～9月 見通し	5年10～12月 見通し
全産業	8.3	(0.0) 8.0	(8.3) 23.2	8.0
製造業	23.1	(▲7.7) ▲11.8	(7.7) 17.6	35.3
非製造業	6.3	(1.1) 11.6	(8.4) 24.2	3.2
建設業	31.3	(▲18.8) ▲7.1	(18.8) 14.3	7.1
情報通信業	14.3	(▲28.6) 14.3	(0.0) 42.9	28.6
運輸業、郵便業	▲57.1	(14.3) 20.0	(14.3) 20.0	0.0
卸売業、小売業	▲11.1	(▲11.1) 6.7	(0.0) 20.0	6.7
不動産業、物品賃貸業	11.1	(▲5.6) 20.0	(0.0) 26.7	▲6.7
サービス業	8.7	(34.8) 30.8	(8.7) 30.8	3.8
規模別				
大企業	▲6.3	(18.8) 31.3	(18.8) 25.0	6.3
中堅企業	12.5	(▲16.7) 15.6	(12.5) 31.3	9.4
中小企業	10.3	(1.5) ▲1.6	(4.4) 18.8	7.8

(注) ( )書きは前回調査(5年1～3月期)時の見通し

## ■ 雇 用 - 現状判断は「不足気味」超幅が拡大 先行きは「不足気味」超で推移する見通し

(現状判断)

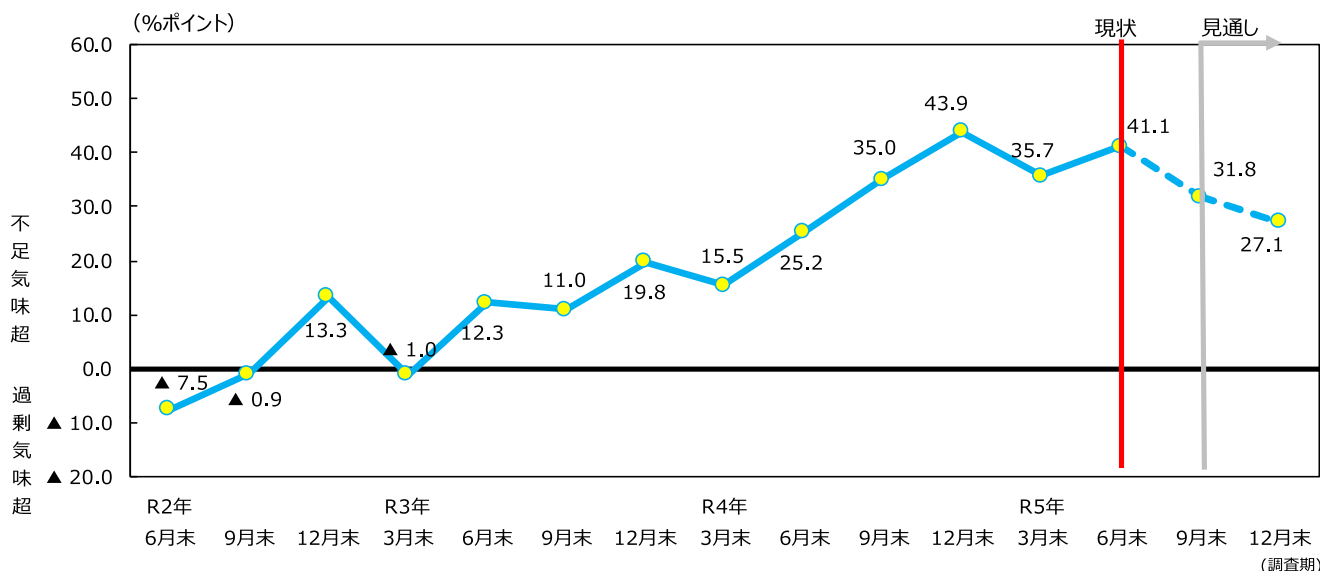
5年6月末時点の従業員判断BSIを5年3月末時点と比較すると、全産業では、「不足気味」超幅が拡大している。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに「不足気味」超幅が拡大している。

(先行き)

先行き（全産業）について、「不足気味」超幅が縮小する見通しとなっている。

【従業員数判断BSIの推移（全産業）】



【従業員数判断BSI（原数値）】

(期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比)

(単位:%ポイント)

		5年3月末 前回調査	5年6月末 現状判断	5年9月末 見通し	5年12月末 見通し
全産業	全産業	35.7	(27.6) 41.1	(23.5) 31.8	27.1
	製造業	38.5	(30.8) 41.2	(23.1) 5.9	5.9
	非製造業	35.3	(27.1) 41.1	(23.5) 36.7	31.1
	建設業	20.0	(6.7) 50.0	(13.3) 50.0	42.9
	情報通信業	14.3	(42.9) 57.1	(28.6) 57.1	57.1
	運輸業、郵便業	71.4	(42.9) 60.0	(42.9) 40.0	40.0
	卸売業、小売業	44.4	(33.3) 30.8	(33.3) 46.2	46.2
	不動産業、物品 賃貸業	25.0	(25.0) 25.0	(8.3) 16.7	8.3
	サービス業	55.0	(40.0) 46.2	(35.0) 38.5	26.9
規模別	大企業	25.0	(18.8) 18.8	(18.8) 18.8	18.8
	中堅企業	34.8	(34.8) 51.6	(26.1) 38.7	32.3
	中小企業	39.0	(27.1) 41.7	(23.7) 31.7	26.7

(注) ( )書きは前回調査（5年1～3月期）時の見通し

## ■ 売上高 — 5年度は増収見込み

(注:電気・ガス・水道を除く)

5年度は、全産業で6.3%の増収見込みとなっている。

業種別にみると、製造業では、6.9%の増収見込みとなっている。

非製造業では、運輸・郵便で増収となることなどから、6.2%の増収見込みとなっている。

(前年度比増減率:%)

		5年度	
全産業		(4.3)	6.3
製造業		(4.9)	6.9
非製造業		(4.3)	6.2
建設業		(4.5)	15.6
情報通信業		(3.5)	▲ 0.9
運輸業、郵便業		(5.3)	28.5
卸売業、小売業		(0.3)	1.9
不動産業、物品賃貸業		(9.2)	9.6
サービス業		(12.9)	18.3

(参考) 全規模・全業種

(前年度比増減率:%)

		5年度	
全産業		(4.3)	5.8
製造業		(4.9)	6.9
非製造業		(4.3)	5.8

(注) 1. ( )書きは前回調査(5年1~3月期)結果

2. 金融・保険は調査対象外

## ■ 経常利益 — 5年度は増益見込み

(注:電気・ガス・水道、金融・保険を除く)

5年度は、全産業で11.2%の増益見込みとなっている。

業種別にみると、製造業では、20.6%の増益見込みとなっている。

非製造業では、不動産・物品賃貸などで減益となるものの、サービスで増益となることなどから、全体では10.8%の増益見込みとなっている。

(前年度比増減率:%)

		5年度	
全産業		(8.8)	11.2
製造業		—	20.6
非製造業		(8.4)	10.8
建設業		(26.7)	▲ 7.8
情報通信業		(▲4.8)	0.9
運輸業、郵便業		—	608.5
卸売業、小売業		(0.1)	▲ 0.1
不動産業、物品賃貸業		(9.5)	▲ 21.2
サービス業		(8.9)	40.7

(参考) 全規模・全業種

(前年度比増減率:%)

		5年度	
全産業		(7.8)	355.5
製造業		—	20.6
非製造業		(7.4)	410.3

- (注) 1. ( )書きは前回調査(5年1~3月期)結果  
 2. 赤字縮小を「—」と表示  
 3. 赤字拡大を「—」と表示



## ■ 設備投資 — 5年度は増加見込み

(注:ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く)

5年度は、全産業で15.4%の増加見込み(電気・ガス・水道を除くと15.7%の増加見込み)となっている。

業種別にみると、製造業では、197.0%の増加見込みとなっている。  
非製造業では、サービス、情報通信などで減少するものの、金融・保険、電気・ガス・水道などで増加することから、全体では13.4%の増加見込みとなっている。

(前年度比増減率:%)

	5年度	
全産業	(▲9.8)	15.4
電気・ガス・水道を除く全産業	(▲28.6)	15.7
製造業	(24.9)	197.0
非製造業	(▲10.3)	13.4
建設業	(▲93.5)	123.8
情報通信業	(▲89.1)	▲17.8
運輸業、郵便業	(▲95.1)	102.6
卸売業、小売業	(103.6)	▲16.6
不動産業、物品賃貸業	(21.1)	25.3
サービス業	(▲51.5)	▲44.5
金融業、保険業	(▲22.8)	116.8

(参考) ソフトウェア投資額及び土地購入額を除く

(前年度比増減率:%)

	5年度	
全産業	(▲10.4)	9.2
製造業	(23.4)	186.3
非製造業	(▲10.9)	7.3

(注) ( )書きは前回調査(5年1~3月期)結果

(参考資料)

■ 今年度における設備投資のスタンス

(単位: %)

	1位		2位		3位	
		構成比		構成比		構成比
全産業	生産(販売)能力の拡大	60.8	維持更新	55.7	製(商)品・サービスの質的向上	54.6
製造業	維持更新	85.7	省力合理化	57.1	生産(販売)能力の拡大	50.0
非製造業	生産(販売)能力の拡大	62.7	製(商)品・サービスの質的向上	56.6	維持更新	50.6

(注) 10項目中1社3項目以内の複数回答による回答社数構成比

■ 今年度における資金調達方法

(単位: %)

	1位		2位		3位	
		構成比		構成比		構成比
全産業	民間金融機関 内部資金	65.2	公的機関	39.1	リース	22.8
製造業	民間金融機関 内部資金	64.3	公的機関 リース	35.7	企業間信用 資産の売却	21.4
非製造業	民間金融機関 内部資金	65.4	公的機関	39.7	リース	20.5

(注) 10項目中1社3項目以内の複数回答による回答社数構成比